

A manga-style illustration of a man with dark hair, a high forehead, and a slight smile. He is wearing a black tuxedo jacket over a white shirt and a dark bow tie. He is positioned in the foreground, looking slightly to the left. The background consists of a large window with a grid pattern, through which a snowy outdoor scene is visible. The window has a dark frame and a large, curved metal handle or latch. The overall style is that of a Japanese manga cover.

歴史人物
まんがで知る

ふるさと伊那谷

今村清之助

まんが アサミネ 鈴
編集 みらい企画 律

長野県 高森町

今村清之助にかかわる重要人物

物語の始まる前に知っておこう

むつ むねみつ
陸奥宗光

政治家



陸奥宗光とともに清之助はアメリカ、ヨーロッパに旅行し、見聞を広めた。

60 頁

いまむら せいのおすけ
今村清之助
「鉄道王」といわれた



いのうえ かおる
井上馨

政治家



今村銀行設立に、よきアドバイスを与えた。79 頁
清之助死後の家族の面倒を頼まれた。84 頁

しぶさわ えいいち
渋沢栄一

「日本の資本主義の父」といわれた



江戸時代にパリ万国博覧会に出席し、外国の経済を学び、日本の近代化に力をつくす。59 頁
清之助の意見を聞き、東京株式取引所を開設させた。58 頁

たなか へいはち
田中平八

「天下の系平」といわれた



フィドンとの相場合戦で清之助と組み勝利する。その後二人とも東京へ進出する。54 頁

当時の日本の背景を学ぼう

清之助が生きた時代は、700 年続いた武士の時代が終わり、近代国家をめざす明治時代になった時

	時代年表	人物年表
江戸時代	1853 年（嘉永 6）ペリーが浦賀に来航 1859 年（安政 6）横浜開港（生糸貿易の中心港） 1860 年（安政 7）桜田門外の変 井伊直弼暗殺 尊王攘夷運動が激しくなる。 ※天皇を尊び外国人を排除	1849 年（嘉永 2） いまむらせいのすけ 今村清之助、生まれる。 試練の少年・青年時代 人の縁に恵まれる 1864 年（元治元）清之助 16 歳、横浜へいく。 きいとどんや 生糸問屋に就職後、 りょうがえしょう 両替商平野屋に勤めるが、家に連れ戻される。
	激動の時代に突入 1866 年（慶応 2）15 代将軍に徳川慶喜がなる。 1867 年（慶応 3）大政奉還により約 700 年続いた武士の時代が終わる。 1868 年（慶応 4）旧幕府軍と新政府軍の戊辰戦争が始まる。 江戸城が新政府軍に明け渡される。	1867 年（慶応 3） しぶさわえいいち 渋沢栄一、 ばんばくしせつだん パリ万博使節団に選ばれる。外国の発展を目の当たりにする。 1868 年（慶応 4）清之助 20 歳、再び横浜にいく。世話になった店は事業に失敗していたため、失望のどん底に落とされる。
	1868 年（明治元）江戸を東京とし、年号を明治とする。明治時代の始まり	時運に乗る 1870 年（明治 3）斎藤やす子と結婚。タンス貯金を始める。 1873 年（明治 6）下級武士の生活費にあてた秩禄公債の売買取引を始める。 1874 年（明治 7） そうばし 相場師フィドンとの相場合戦を田中平八と行う。 横浜から東京へ進出
	明治政府の大改革がはじまる がくせいこうふ 学校制度を定めた学制公布、義務教育の徹底、 はんせきほうかん 領地と領民を政府に返上する版籍奉還、 はいはんちけん 藩を廃止し県を置く廃藩置県、 はつごかいせい 財政を確保するために土地に税金を科す地租改正、 ちやうへいれい 20 歳以上の男子に兵役の義務を負わせる徴兵令、 はいどうれい 廃刀令により士族は刀を取り上げられる。電話、郵便、鉄道と相次ぐインフラ整備。金 1.5g を 1 円とする金本位制	東京株式取引所設立 1878 年（明治 11）渋沢栄一と協力関係を深め、創設される。 1884 年（明治 17） むつむねみつ 陸奥宗光に同行し おうべい 欧米に研修旅行。欧米の工業・経済の発達に刺激を受ける。
明治時代	1877 年（明治 10） せいなん 西南戦争 生活の基盤を失ってしまった士族たちの反乱。政府に鎮圧される。	日本の近代化につくす 1886 年（明治 19） りやうちうてつどう 両毛鉄道創立にあたり はつぎん 発起人となり、鉄道事業に乗り出す。以後多くの鉄道事業に関わる。
	1885 年（明治 18） いとうひろがみ 内閣制度ができる。初代内閣総理大臣伊藤博文 1889 年（明治 22） だいにほんていこくけんぽう 大日本帝国憲法の発布	1888 年（明治 21）今村銀行設立 1902 年（明治 35） しょうがい 54 歳の生涯を閉じる。
	1894-1895 年（明治 27・28）日清戦争が起きる。日本勝利。その後、1904 年（明治 37）日露戦争がはじまる。	

もくじ

物語の始まる前に知っておこう	
当時の日本の背景を学ぼう	1
もくじ	2
みなさん、こんにちは 私は今村清之助です	3
一 少年期の決意	4
二 横浜の弗屋で働く	14
三 出原村へ連れ戻されるが	22
四 こんなことで負けてたまるか	30
五 結婚・功を奏した筆筒貯金	44
六 新天地・東京へ	54
七 外遊し見聞を広める	60
八 鉄道王と今村銀行	70
九 今村清之助という人	80

清之助に深く関わった人たち	91
清之助の人柄を語る	93
清之助さんに聞いてみようコーナー!	95
清之助が関わった事業	100
伊原五郎兵衛らに受け継がれた伊那電気鉄道建設	102
年表	103
写真が語る清之助の足跡	108
高森町町長 王生照玄あいさつ	110
「気暖万丈の人」といわれた清之助に学び、地域に誇りを	

◆ 文中の会話、絵の中の衣装、背景など、独自に書きおこしている部分もあります。

◆ この本の作成にあたり『今村清之助事歴』を参考にしました。

みなさん、こんにちは 私は 今村清之助 です



私は江戸時代の終わり、1849年（嘉永^{かえい}2）に高森町で生まれました。ちょうどその頃、神奈川県浦賀^{うらが}に、見たことのない大きなアメリカの船があらわれ、それまで鎖国^{さこく}を続けていた日本に開国を要求してきました。見たことのない外国人に驚き、追い払おうという動きが起きました。その一方で外国との取引を進めようとする人たちもいました。その争いが日本各地で起きました。武士たちの反乱を止めることのできない幕府^{ばくふ}を倒して、天皇中心の新しい国を作ろうという動きも起き、まさに日本は動乱期^{どうらんき}でした。江戸幕府最後の将軍徳川慶喜^{とくがわよしのぶ}は、天皇に政権^{せいけん}を譲^{ゆず}ることを決断^{けつだん}し、700年も続いた武士の世は終わり明治政府^{たんじょう}が誕生しました。私が20歳の時でした。

その時、私は生まれ故郷を出て横浜にいました。横浜は港が開かれ貿易^{ぼうえき}が盛んにおこなわれていました。その人たちを相手に商売をすることができたのです。私はいろいろな人たちの縁^{えん}をいただき、たくさんのお金を稼ぐことができるようになりました。

明治政府はあらゆる近代化改革^{かいかく}をおこなっていきます。そのひとつが全国に鉄道を建設することでした。私もその実現に向けてあらゆる方面から協力をしました。全国各地に、韓国^{かんこく}や台湾^{たいわん}にも鉄道が敷かれ、そのすべてに全力^{そそ}を注ぎました。鉄道が敷かれるとその地域の特産物が各地に運ばれ、人や物の動きが活発になり、日本は経済的に豊かになっていきます。

少年のころ、生まれ故郷の高森町から「自分の力で稼ぎたい」との強い意志をもって外の世界に出て行き、身についた知識^{ちしき}と行動力^{こうどうりょく}が私の原動力^{げんどうりょく}です。

私のことを「鉄道王^{てつどうおう}」として評価してくださっているみなさん、私の歩んできた道をお届けしましょう。

少年期の決意

嘉永2(1849)年
3月3日、
今村清之助は
出原村(高森町)で
生まれた

父は嶋田屋・今村吉左衛門
母・祖母・姉・兄伊三郎の
6人家族だった

＊今村家の屋号

今村家は
代々庄屋であつたが
祖父の代で没落しており
清之助の幼少期は
大変貧しかった

田畑山林も手放して
しまったので
一家は日雇いの仕事や
薪拾いで生計を立てて
いた





…悔^{くや}しい
思いをさせて
すまなんだな

そしたらなあ
周吉^{しゅうきち}や…

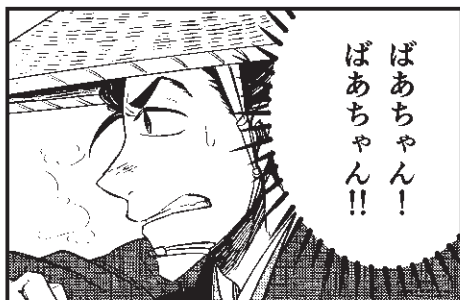
お前^{まへ}さんが
うんと稼^{かせ}いで
稼^{かせ}いで稼^{かせ}いで…

いつか
あの山^かあ
買^もい戻^どして
くん

…おう

俺^{おら}あ絶対^{ぜったい}…
大金稼^{たいきんかせ}ぐでな!!!

げんじがねん
元治元年(1864年)
さい
16歳の春



ばあちゃん！
ばあちゃん！！



俺あが必ず
山を買い戻して
やるからな！



3月だったが
雪のある伊那街道の
旅となった

「ここにおるだけじゃ
何も変わらない」と
清之助は家族に黙って
家を出た



手には密かに持ち出した
2朱を握りしめていた

*約1250円

和田峠
わだとうげ

…もし
そこのお若いの

！

中山道の難所を
なぜ1人で歩いて
おるのか

私は旅の坊主だが
…良ければ話を
聞かせてくれんか
ね？

お坊様の前で言う
事じゃないですが

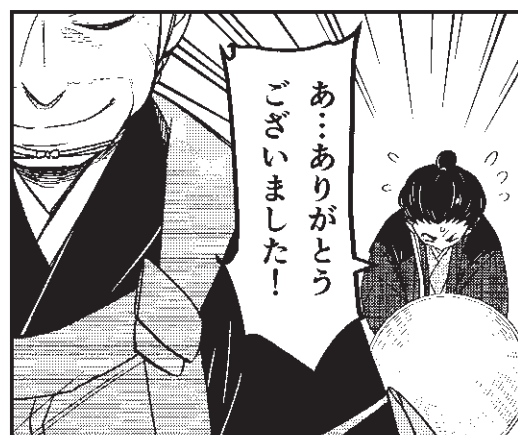
俺あ…

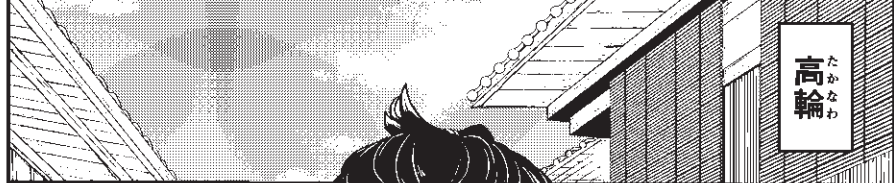
たくさん金を
稼ぎたいん
です…

俺あ怪しい
者じゃあ
ないですに

あつ！
…いや





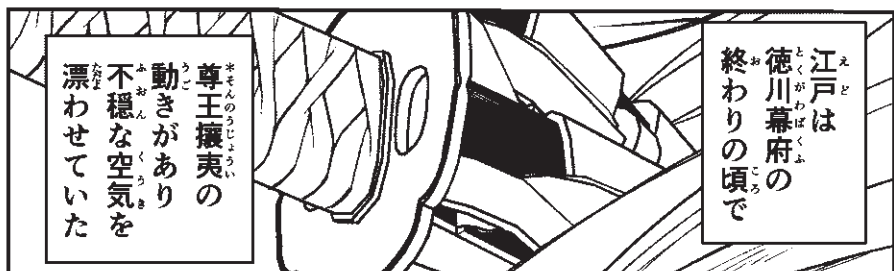


高輪
たかなわ



な…
なんか

お侍さん
ばっかりだ
なあ…



尊王攘夷の
動きがあり
不穏な空気を
漂わせていた

江戸は
徳川幕府の
終わりの頃で

＊天皇を尊重し、外国人を日本から追い出そうとする考え



焼き芋で
我慢だ…!!

もぐ
もぐ

ガヤ
ガヤ

ガヤ
ガヤ

＊きちん宿は宿泊客が米などを持ち込み、
安く宿泊できる



＊ペリー来航 1853年(嘉永6) 横浜開港 1859年(安政6)



二

横浜の埠屋で働く

横浜の港はすでに
貿易港として開けていて
賑わう街となっていた

外国人も多く
生糸や外国人相手の
店が多くあった



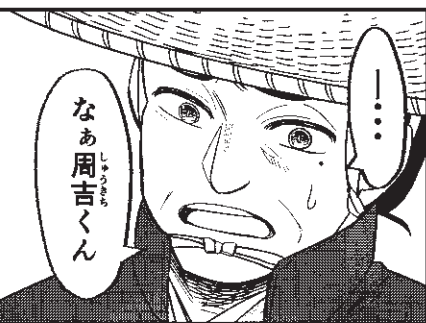
横浜なら働き口が
あるかもしれない！



横浜は当時
生糸の輸出港として
大変栄えていて

養蚕の盛んな地方から
たくさんの人々が
行商に訪れていた

*輸出品の80%が生糸だった





ここで商売しょうばいが
してみてえ!!

……いいえ
俺おらあの望のぞむ所ところ
です!



ここは田舎いなかの
少年しょうねんが来る所ところじゃ
ねえでな……

早く出原いずはらへ
帰かえりなさい



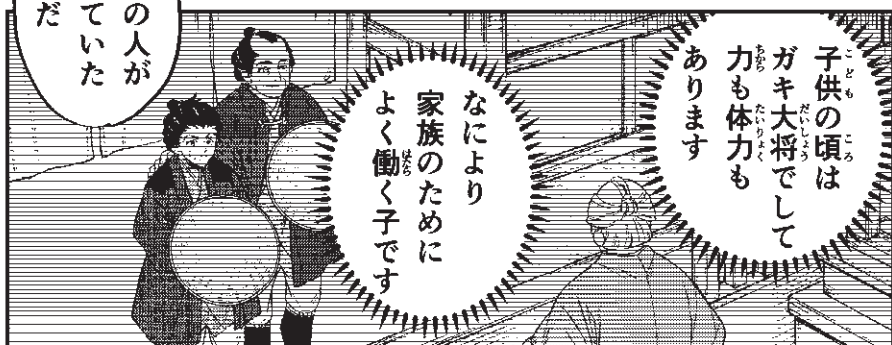
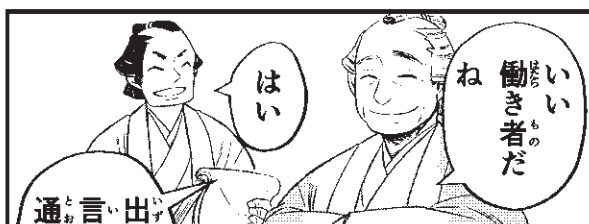
……
周吉しゅうきちくん

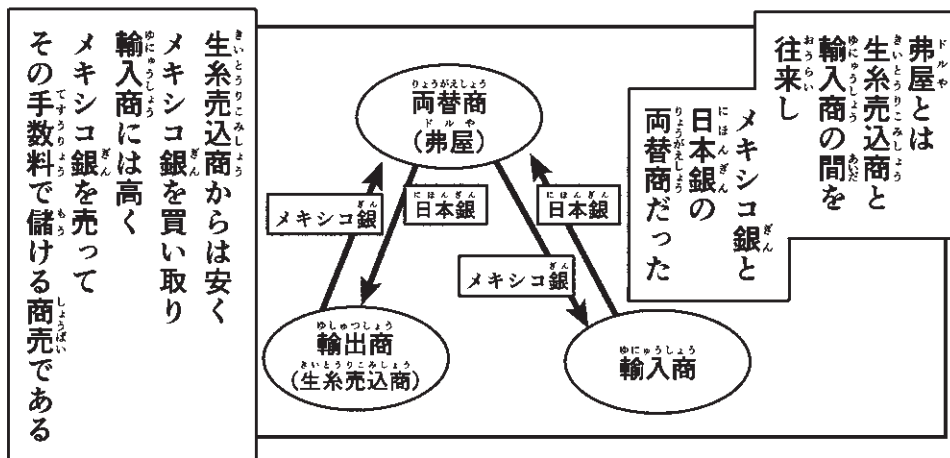
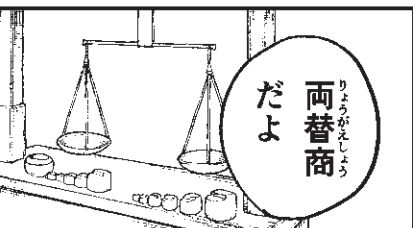
……
ーわかった
そこまで言うなら

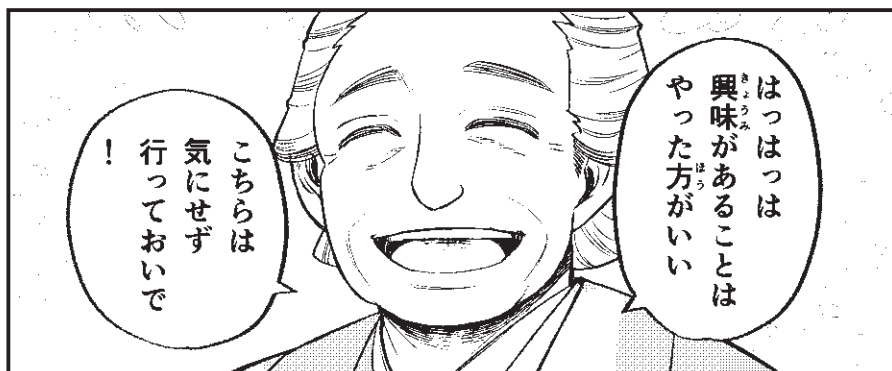


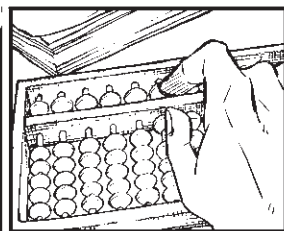
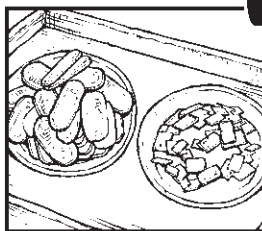
ふじや
藤屋











三

いずはらむら
出原村へ連れ戻されるが…

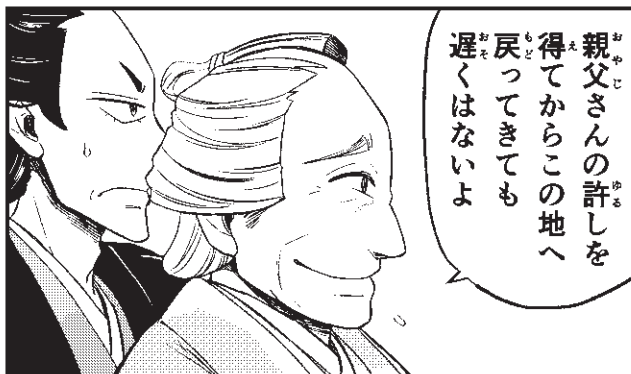
よこはま
横浜で働き始めて
しばらくした
ある日—

こきょう
故郷の父親から
周吉を出原村へ連れて帰って
来てくれと頼まれた村人が
藤屋を訪ねてきた



…周吉くん
しゅうきちくん

おやじ
親父さんの許しを
得てからこの地へ
戻ってきてても
遅くはないよ

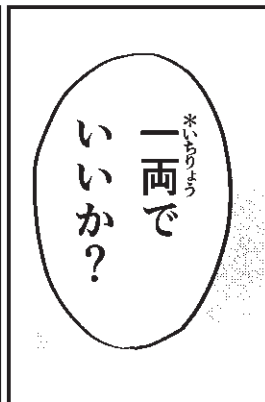


ここで働きたい
ここであら
夢が叶う！
どうして…
どうして！

—周吉は
泣く泣く故郷へ
帰っていった







*約20,000円



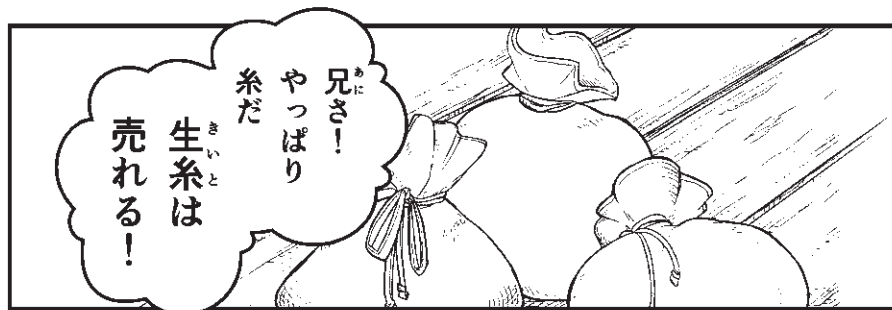
このころ周吉は
「清之助」と名を
改めた

くず繭で糸を作り
提糸にまとめて
それを担ぎ岐阜まで
売りに行った

＊提糸
元結で生糸を結わえたもの



しかし
飯田の城下町で
卵を売買するも
利益は少しばかり
だった…



兄さ！
やっぱり
糸だ
生糸は
売れる！



それならば…



もっと資金があれば
生糸を増やして
うんと稼げる！

兄・伊三郎は清之助を
資産家である叔父の
彌右衛門のところへ
連れて行った

商売をするために
5両貸して欲しい
…？

*約10万円

駄目だ!!
農家の子は
農業をする
もんだ!

生意気にも
商いに投じるたあ
なにごとだ!

日頃挨拶にも来んの
苦しい時だけ来られても
聞くことはできません!

しかも
5両ばかりの資金に
苦しむとは—

無能であり
意気地なし
だ!!

罵りを聞くために
来たんじゃない
ねえ…!!

…すみませんでした

自分の力で何とか
やってみます…!!

慶応3年(1867)12月28日
19歳になった清之助は
銀一分を持ち今度は大平峠を
越えて馬籠から中山道まわりで
名古屋を目指した

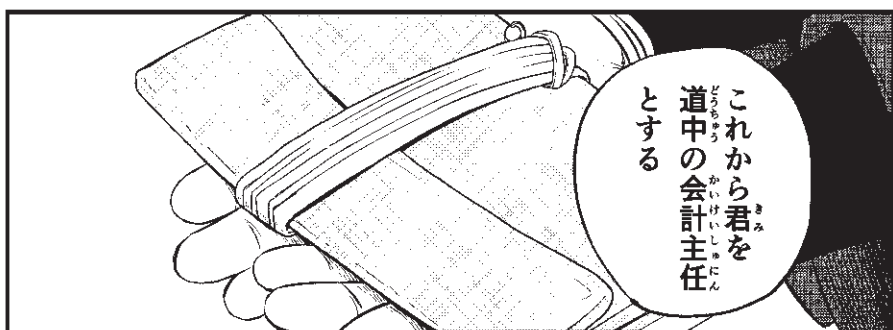
※約2,500円

江戸へ向かうと
また
連れ戻されると
思ったからだ

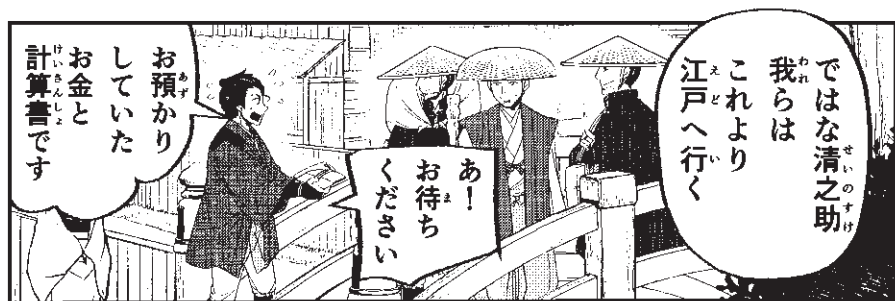
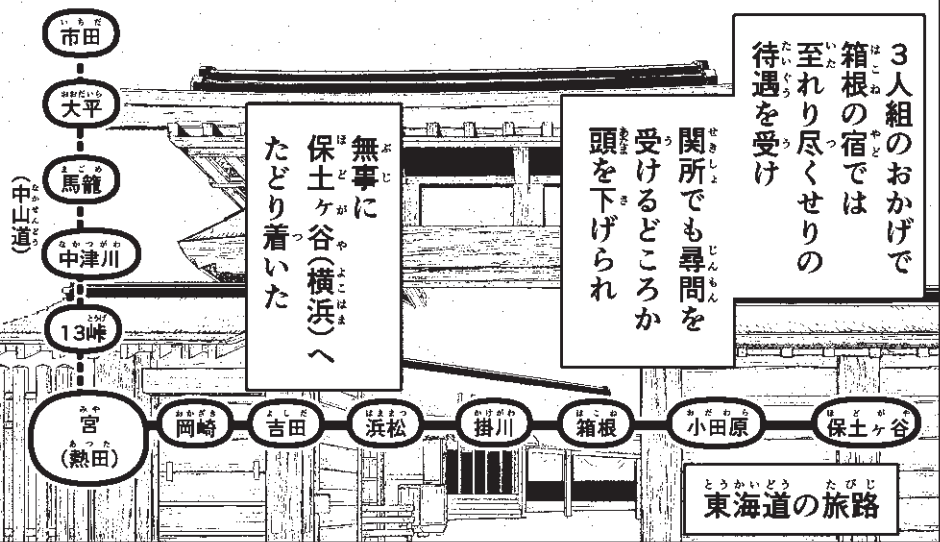
峠の茶屋

清之助は途中
身なりの良い
3人組と出会う

なんと…
君は横浜で
働いていた
のか!



*旅費



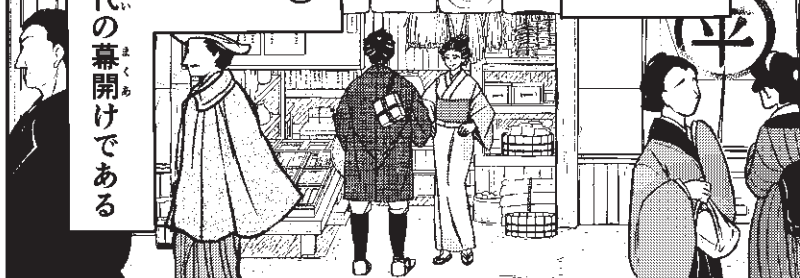
四

こんなことで負けてたまるか

「笠間」とだけ名乗った
旅の主を見送ると
清之助は横浜へ向かった

明治元年（1868）
清之助20歳の時—
明治新政府と
なっていた

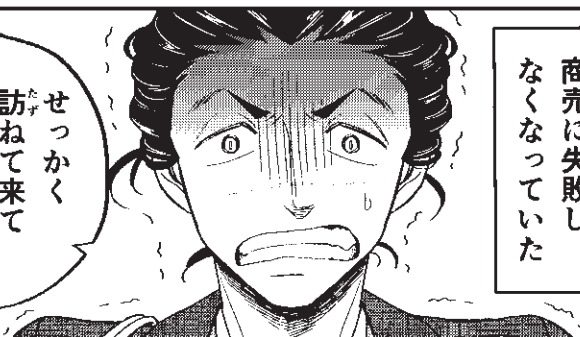
新しい時代の幕開けである



*平野屋は道具屋になっていた

しかし横浜では
平野屋も藤屋も
商売に失敗し
なくなっていた

せっかく
訪ねて来て
くれたのに
すまないねえ



うちの人も
フラっとどつかへ
消えちまってね…

平野屋
市五郎の妻



途方に暮れて
数日が経ち
宿代を支払う
と

*一分余りしか
残らなかった

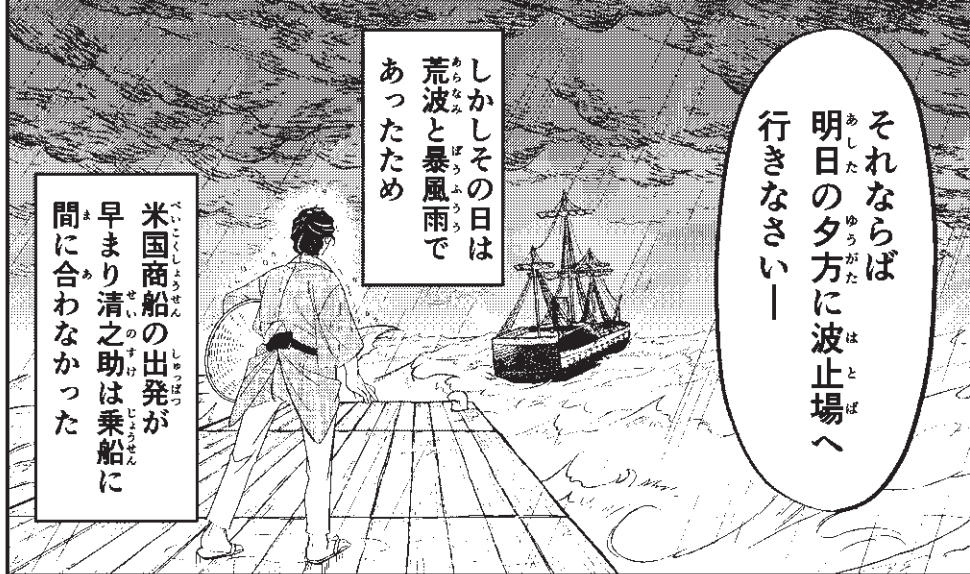
*約5,000円



*約3,750円



*約16万円



それならば
あしたゆうがた
明日の夕方に波止場へ
行きなさい――

しかしその日は
荒波と暴風雨で
あったため

米国商船の出発が
早まり清之助は乗船に
間に合わなかった



水夫の夢は絶たれ
また元の生活に
戻ることはなかった



…そんな…!

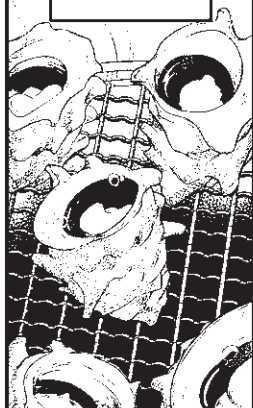
8ドルが
消えちまった!!

清之助は再び
さざえのつぼ焼きを
売り始めた

なあ

こういう商売は
年寄りがやるもんだ

元気そうな若者が
なんでまたつぼ焼きを
売っているんだ？



＊外国人が住んでいた地域にあり、政府より許しを得た商人だけが商館で交易を行うことができた

——と
まあそんな
訳で……

どうにも
ならんです

君は
信州人なのか！

養蚕製糸には
詳しいかい！！

え……
はい！

はい……

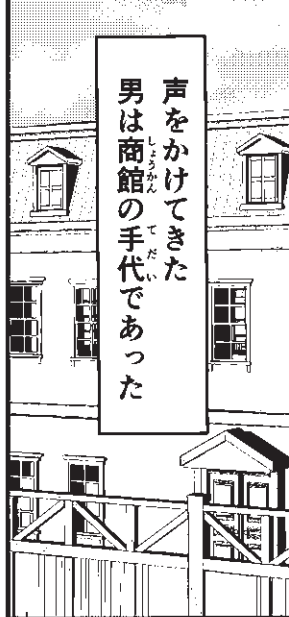
明日になったら商館
百三十三番館に來なさい！
仕事があるんだ！！

声をかけてきた
男は商館の手代であった



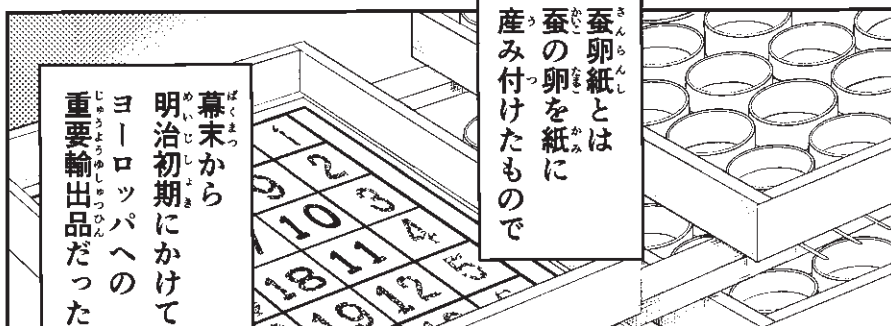
館主に紹介され
手代とともに
信州上田に向かい

蚕卵紙の製造に
従事した



蚕卵紙とは
蚕の卵を紙に
産み付けたもので

幕末から
明治初期にかけて
ヨーロッパへの
重要輸出品だった

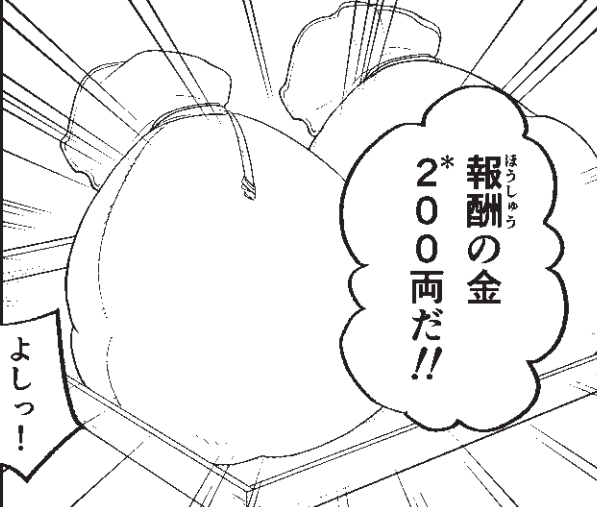
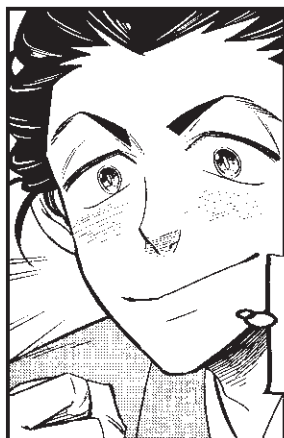


君のおかげで
大儲けだ！

養蚕に詳しいと
働き方が違う！



いやー！
今村くん



報酬^{ほうしゅう}の金
200両だ!!

よしっ!

*約400万



横浜^{よこはま}へ送った
蚕卵紙^{さんらんし}で
大損^{おおぞん}したんだと

気の毒^{どく}に…

無一文^{むいちもん}に
なったん
だってよ

清之助^{せいのおすけ}は50両を
出原^{いずはら}の実家^{じっか}へ送り
残金^{ざんきん}150両^{*}を持って
再び^{また}上田^{うえだ}へ行き
蚕卵紙^{さんらんし}を買い入れた



ーしかし

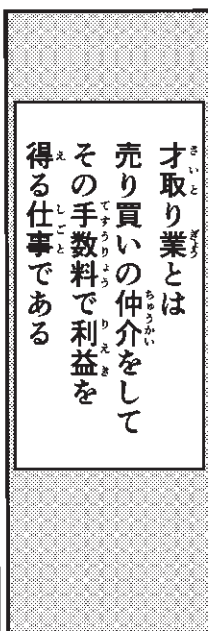
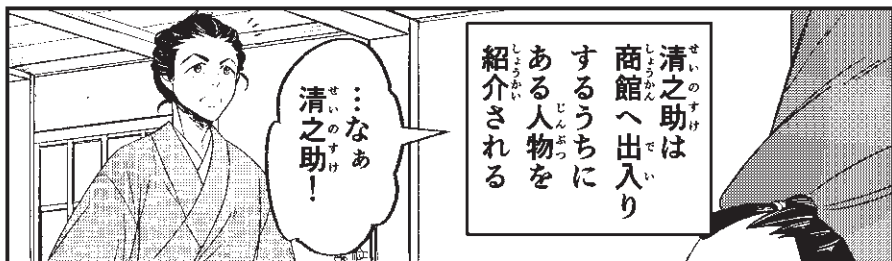
*50両=約100万円
*150両=約300万円

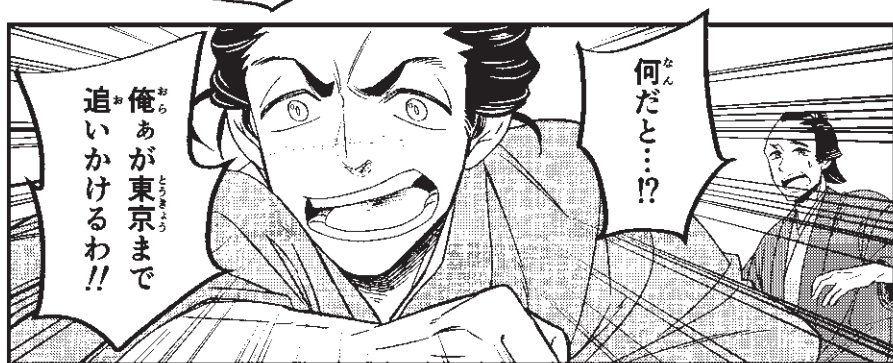


外国^{がいこく}ではすでに
蚕卵紙^{さんらんし}は不要^{ふよう}に
なっており

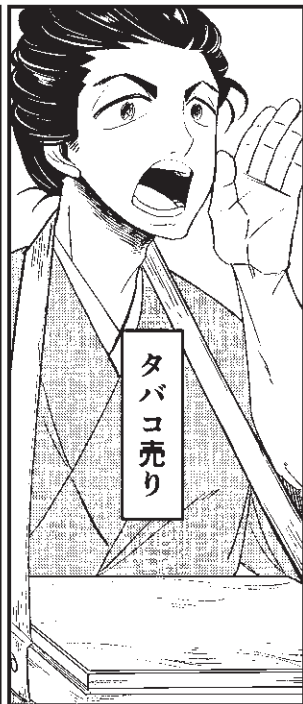
輸出品^{しゅしゅつひん}としての
価値^{かち}がなくなり
相場^{さうば}が急落^{きゅうらく}して
いた

世^よの中^{なか}の
流れ^{なが}は早い…





再び
地道な商売を
しなくては
ならなくなった







さらに今度は
道具屋になつてた
平野屋に頼み

帳場格子を借りて
店を開いた

帳簿の表には
『嶋田屋清之助』と書いた

＊今村家の屋号



今は何かと
忙しい時代だ

道具屋なら
すぐに客が
飛び込んで
来るはずだ



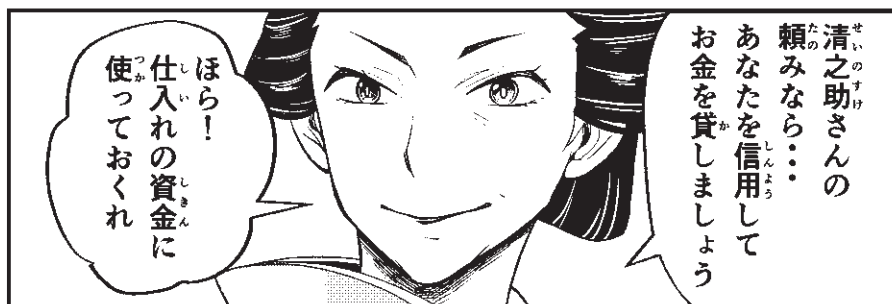
至急だ

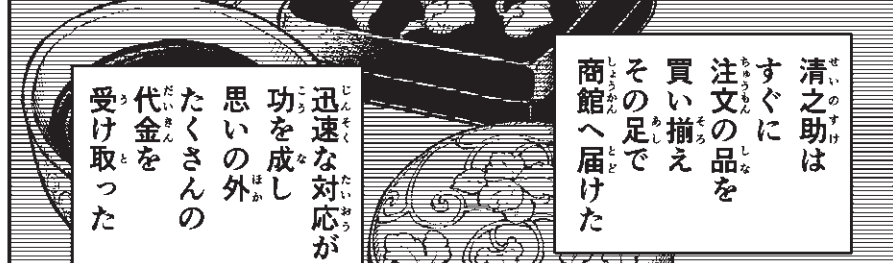
商館で紅とおしろいを
買いたいんだが…
用意してもらえるか？



やってるかい？

来た！





市五郎は頭を下げて
平野屋の再興を願った

再び平野屋が
弗屋として
商いを始めると

清之助は人気の手代として
横浜商人の頭角をあらわして
いくのだった



*約6,000万円



五

結婚・功を奏した
 簞笥貯金

明治3年(1870)
 清之助は
 斎藤彦兵衛の娘
 やす子と結婚した

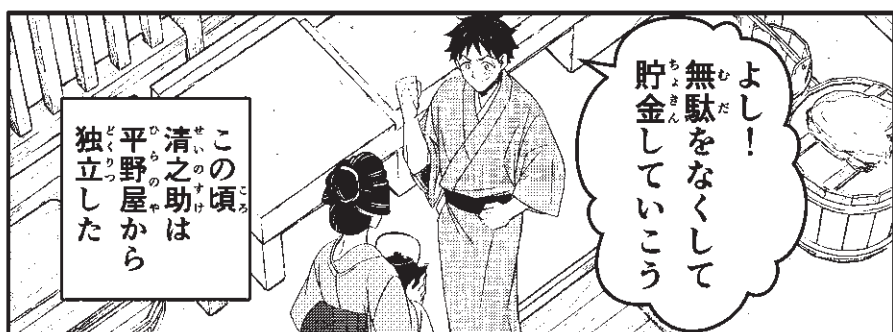
しかし新婚夫婦は
 貧乏な生活だった

こりや駄目だ！
 釜の蓋が割れとる

あっ

清之助さん
 清之助さん！

清之助22歳
 やす子20歳
 縞の羽織着流しのまま
 結婚式に臨んだ



明治5年(1872)
清之助たちは
横浜本町横丁に
転居した

…清之助さん

何をされて
いるんです？

帳場筆算の裏に
穴を空けて
ここから毎日
儲けた分を
少しずつ
貯めていこう！

こうして
少しずつ貯めていけば
いつか夢のある大きな
商いの元になる！

…この筆算貯金の管理を
君に任せたいんだが

どうだ？

喜んで！

突然にそれは
訪れた

今村清之助は
いるか！

平野屋贋金事件に
巻き込まれたのである

平野屋と書かれた
封筒から贋金が見つかった

素直に言えないか
心当たりはないか

平野屋は頭を下げて
信用を取り戻したんだ！

贋金なんて
こしらえる訳
あるかあ!!!

清之助も
取り調べを
受けるが無罪

『誰かが平野屋の
印章を模造し
贋金を封筒に
入れたのでは
ないか』

結局犯人は
わからなかったが
平野屋は倒産した

—その後—
平野屋は債主の一人であった
『天下の糸平』と呼ばれた人物の
手にわたる

田中平八（1834～1884）は
赤須村で米と綿を商う藤島家の
三男として生まれたが
相場で失敗し没落したため飯田城下の
魚屋に丁稚奉公に出された

その後—
染物屋の田中はると結婚し
田中平八となった

横浜開港と同時に
英国人相手に生糸の商売をし
洋銀相場で莫大な財を成して
いった

*権利の所有者

*駒ヶ根市



やす子！
公債の商売が
上手くいそ
だぞ！



旦那様よろしゅう
ございましたね

ふふふ



商売の利益の一部を
少しづつ貯めていた
帳場筆算の預金は

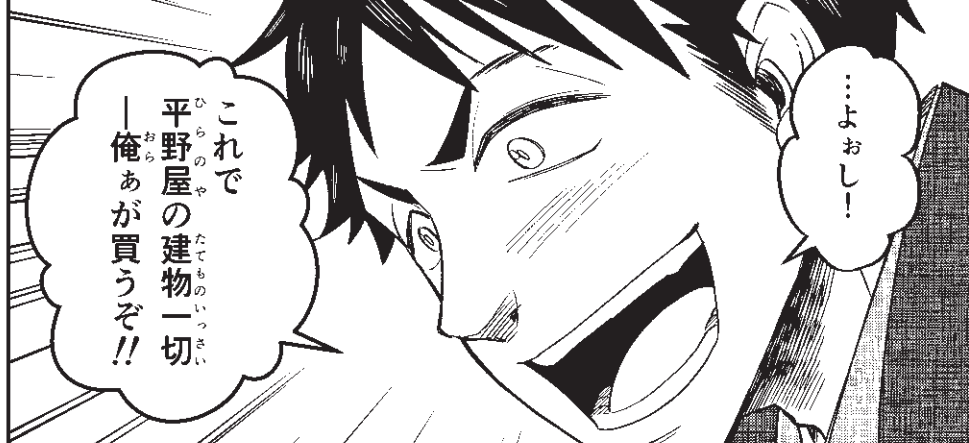
古金銀でいっぱいになり
莫大な資産になっていた



清之助は大阪へと
商売の手を広げていた

井上商店の
前田伊之助と連携し
秩禄公債の売買に
着手した

*秩禄公債…政府が士族に貸し付けた債券





清之助は田中平八と
『金穀相場会所』をつくる

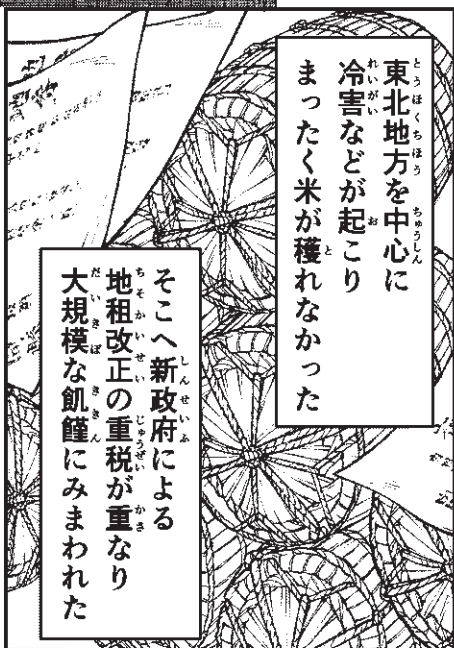
取締りは平八
清之助は役員
だった

当時
日本は米飢饉になり
外国米を大量に
輸入していたため
米相場で商売ができた



いくら外国から米を買っても
地方じや米が届かず苦しんどる…

何か良い手は
ないものか！



東北地方を中心に
冷害などが起こり
まったく米が穫れなかった

そこへ新政府による
地租改正の重税が重なり
大規模な飢饉にみまわれた

フィドン

明治7年(1874)
その外国米が大騒動を
生むことになった

横浜港に大量の輸入米が入り
ドルが上昇した

そこに目を付けた
中国の実業家・フィドンが
金穀相場取引所へ
乗り込んできたのだ



フィドンめ：
香港上海銀行と
組んで
大量にドル売り
しやがる！



このままじゃ
高い輸入米しか
買えなくなつて
日本はますます
困つてしまう！

：香港上海銀行が後ろに
ついてる限りいくらでも
ドルを出してくるぞ！

取引所の資金調達も
難しくなつてきた！

—俺に
考えがある

やるぞ：
そうばがつせん
相場合戦だ!!!

平八は頭取の地位を利用して規約を改正

ドルは小切手ではなく現金での取引したのである

ナンダソレハ……!

偽の千両箱の金塊は重く簡単に外国へ送ることができないためそのまま放置せざるをえなくなった

そうしているうちにドルの相場が崩れフイドン側は敗北し輸入米を安く買えるようになった

両替分の現金ですよ

底に石ころを詰めその上に小判を散らした偽の千両箱で芝居をうった

しかしこの戦いは大蔵大臣・井上馨の耳にも入り聞き取り調査が行われた

神奈川県令・中島信行の仲裁により清之助と平八は事なきを得た

六

新天地・東京へ

フィドンとの相場合戦の騒動で清之助と平八たちは横浜で両替商を続けることが難しくなり東京へ行かざるをえなくなった

東京の町は職や地位を失い生活に苦しむ士族や浪人であふれていた

新しい時代になって生活が苦しくなったのは農家だけじゃねえ…

お侍さんも苦しいんだ…

清之助は砂糖倉庫を借り彼らの持つ秩禄公債を現金に替える取引を始めた

するとたちまち清之助の店の噂は東京中に広まり同じように秩禄公債を売買する店があちらこちらにできた

明治9年(1876)これに対して政府は秩禄公債を廃止し米の相場をもとにした金禄公債を出した

きんろくこうさい

金禄公債

5～14年分のお金を
毎年利息分だけを
支給するもの



ほとんどの士族が
困窮し没落

ちつろくこうさい

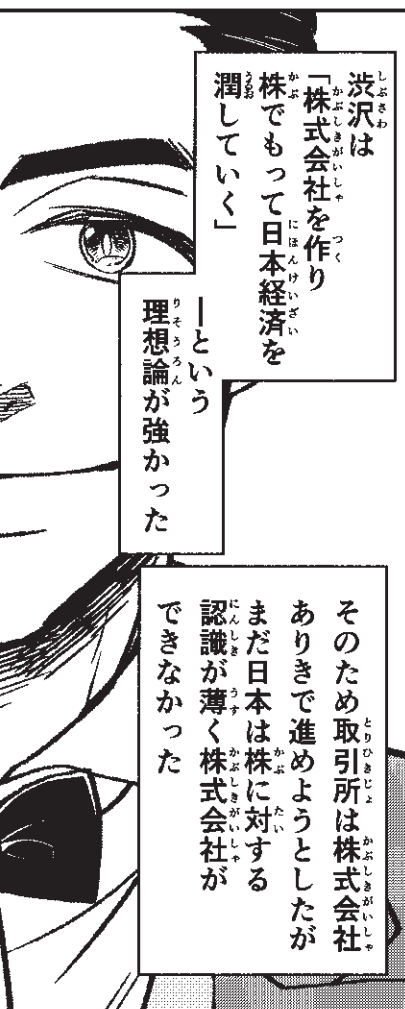
秩禄公債

士族や浪人に対して
毎年支給される
政府からの生活保護



廃止

その背景には
毎年の秩禄支給が政府の
財政難を招いたという
事情があった



渋沢は
「株式会社を作り
株でもって日本経済を
潤していく」

—という
理想論が強かった

そのため取引所は株式会社
ありきで進めようとしたが
まだ日本は株に対する
認識が薄く株式会社が
できなかった



井上馨

どうだね
渋沢くん

これからは
株主が必要なんです

大隈重信

公債の債券を公設の
取引所で行いたい



では早急に

取引所認可の
条例を作り
ましょう！

渋沢栄一

—しかしこの条例は
うまく機能しなかった



清之助は渋沢の家を
毎日訪ねては今一度の
株式取引所設立を懇願した

俺たちは実際の商いを通して
世の中の現実を知つとります！

政府のいう取引所は
株式会社を作るための
理想論でしかない！

二つの見解の差を
埋めることが大切なんです！！



誰に何を
知った風に
言うのか
君は！



協力して
頂けるまで
毎日来ます
よ！！



政府に復帰した
井上馨を通じて
田中平八からの
取りなしで
渋沢の清之助に
対する不快感が
解消された





明治11年(1878)
6月1日
民間と公設の
取引所を合併して

東京株式取引所を
創設

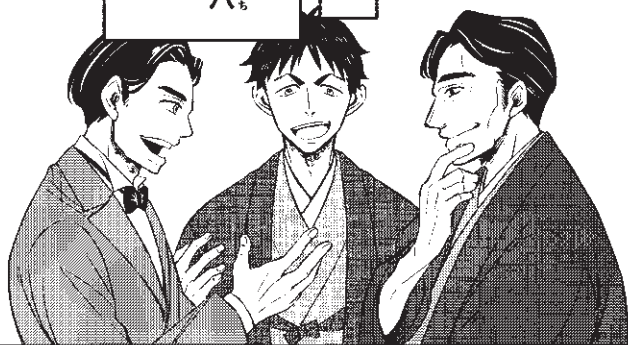
「皆で資金を出し合って
事業を行いその利益は
皆で分け合う」

という理念のもと

主助となった
渋沢栄一・田中平八
清之助が話し合い
約束事を決めた

約束事

- 一、筆頭株主にはならない
- 一、同じ株数を出資し、
影響力を同一とする
- 一、役員にはならない



東京株式取引所が
設立されると
その年の末に
4つの株式会社が
上場する

東京株式取引所
丸町米商会所
麹町米商会所

そして
第一国立銀行
である――



渋沢は渡仏中に
銀行と株式取引所は
経済の要であると
気づいた

明治6年に渋沢が設立した
第一国立銀行は当初
株主の公募を募った際に
100万円の予定に対し
45万円弱の資金しか
集められなかった

このことから
株式取引所が
必要であるとの思いを
一層強くし
その設立を強く訴えて
いたのである

今村くん…私はね
銀行は大きな河だと
思っている

溝にたまっている水や滴る水は
河に集まらなければ消えゆくだけだ

一人ひとりの
利益だけで
国を富ませても
効果はないのだよ

みんなの力が必要なんだ！

*100万円=約200億円 45万円=約90億円

がいゆう けんぶん ひろ
外遊し見聞を広める

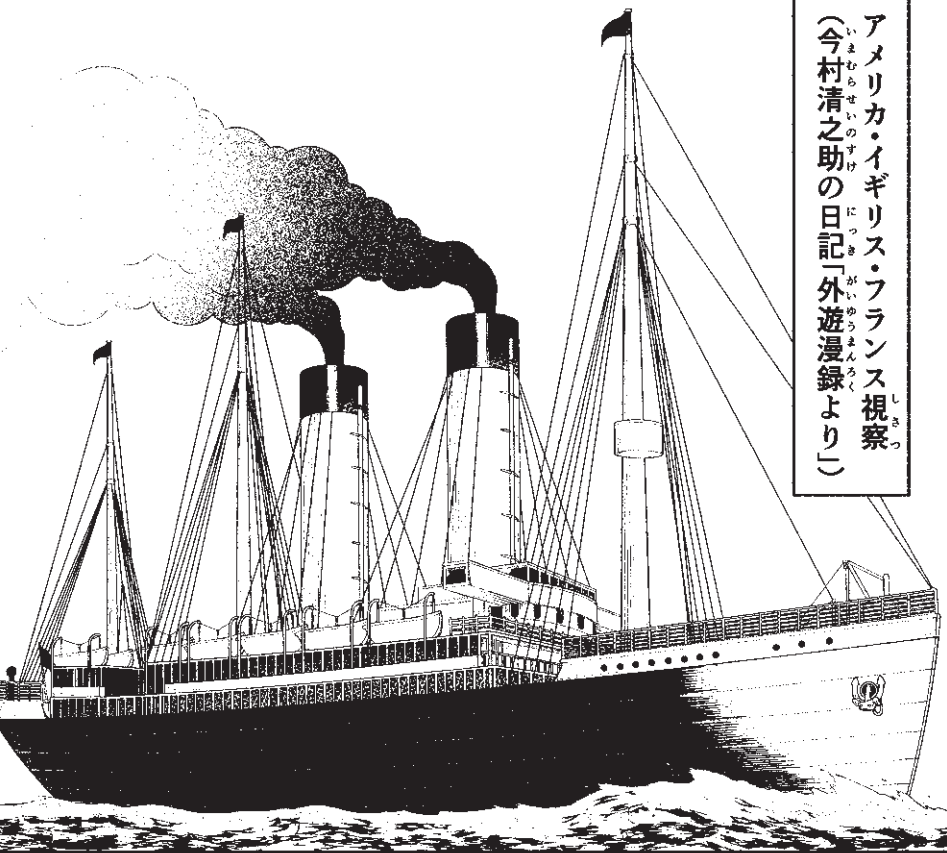
めいじ
明治11年(1878)
せいのおのすけ
清之助は東京株式取引所へ
なかがい
仲買人として出入りしていた

どうじ
同時に商人として
ぎやうむ
業務を拡大し

いまむらしやうてん
今村商店は手代の
こんどうせんすけふうふ
近藤善助夫婦に
まか
任せていた



アメリカ・イギリス・フランス視察
（今村清之助の日記「外遊漫録より」）



明治17年4月26日
土曜日

陸奥くんと共に午後2時45分
新橋発の汽車にて横浜へ赴く。
富貴楼にて送別会。

この日、朝から突風が吹き
嵐となり明朝の乗り込みを
危ぶむ。

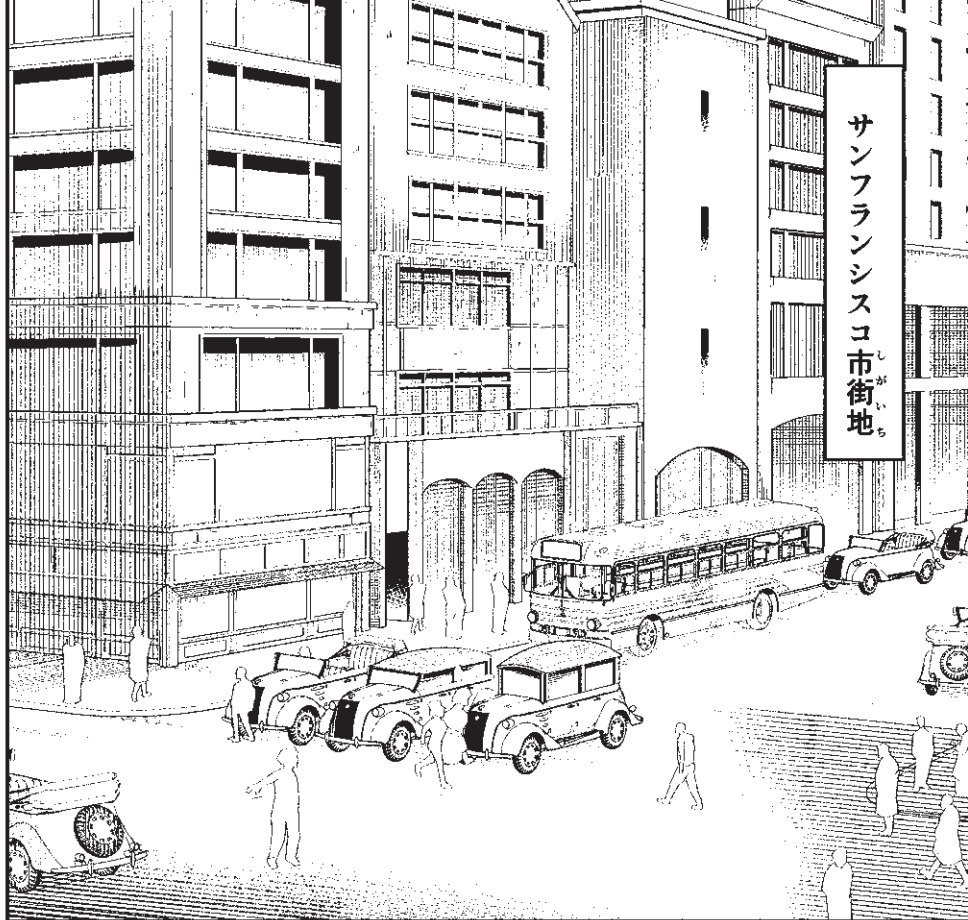
翌27日
好天であり天もまた我らに
はなむけを送ってくれたのか。

午前8時。
オシャニック号に乗る。
トン数は3569トン、
延長488フィート。

山階宮ら25名乗船。

*横浜の料亭。情報交換の場。清之助はこの常連であり、ここでの人脈が清之助に大きな影響を与えていた。

サンフランシスコ市街地



5月12日
サンフランシスコ港着。

市街地は車道と人道とが
分れており、道幅が広い。
人道はアスファルトか木片、
金門公園 私設動植物園見学。

5月14日
ニューヨークへ向かう。

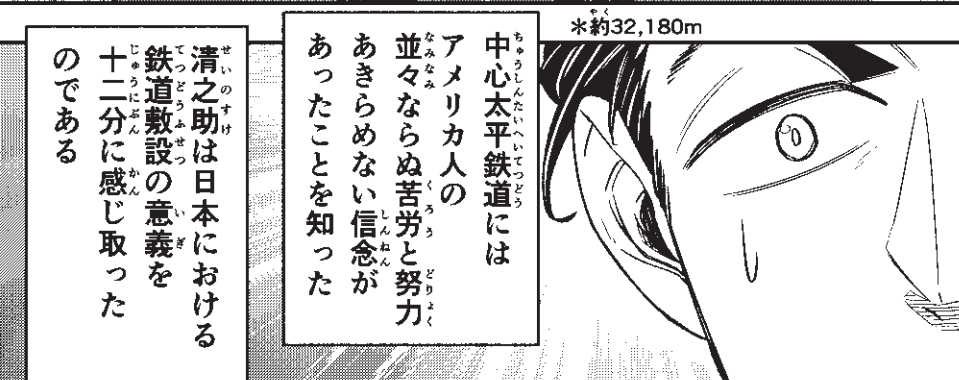
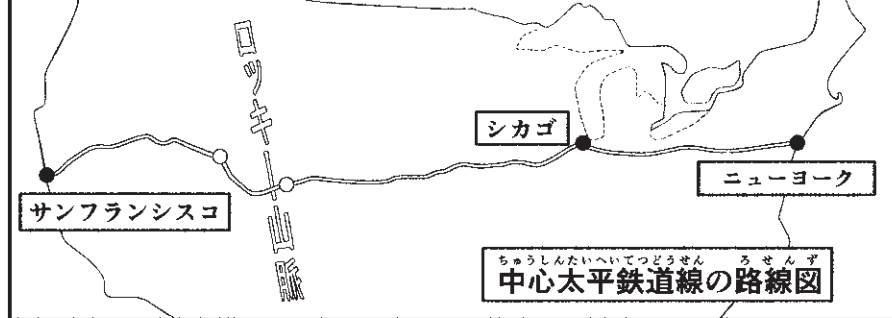
川蒸気船に乗り、
「中心太平洋鉄道線」の
急行列車に乗る。

ニューヨークまでは
昼夜を走り、

7日にわたる鉄道の長旅。

この鉄道は、
西は太平洋の東岸から
東は大西洋の海岸に達する。
その間、

ロッキーマウンテンなどあり。



ニューヨーク株式取引所



5月24日

ニューヨーク着

ニューヨーク株式取引所の様子を学ぶ。

株式取引所へは、

しばしば行き

頭取や役員に面会し

諸規則・商業上の習慣および

実地取引のありさまを

問い合わせたりした。

日本の取引所との違いもわかった。

ニューヨーク株式取引所

規則の概略について

書き取るなど、

しっかり勉強した。



ウォール街

ウォール街にいたる
この街は、

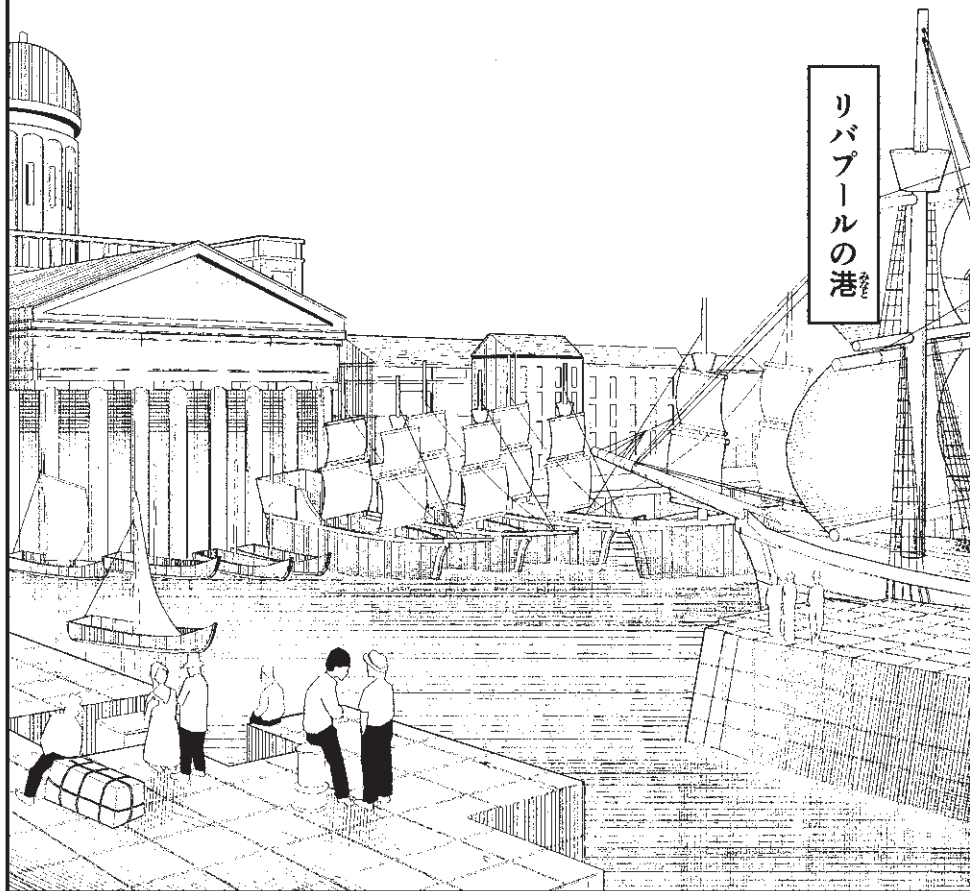
銀行、鉄道会社事務所、
株式取引所、株式取引所仲買店
等のみ。

ひとつも小売店なし。

明治25年（1892）に
株式取引所改良が起きた時
清之助のこの外国での見聞が
役立ち

『東京株式取引所改良に
就き意見』並びに
『増株の議に就き意見』を
提出した

リバプールの港



6月28日午前8時
ニューヨークから

イギリスへの旅。

汽船スペイン号へ乗り込む。

イギリスへ渡る日本人は

陸奥くん他一名と自分の三人
のみであった。

7月4日午後2時頃

アイルランドの岬を見る。

午後9時

港に到着する。

7月8日午前4時

リバプール着

ロンドン・フランスを視察。

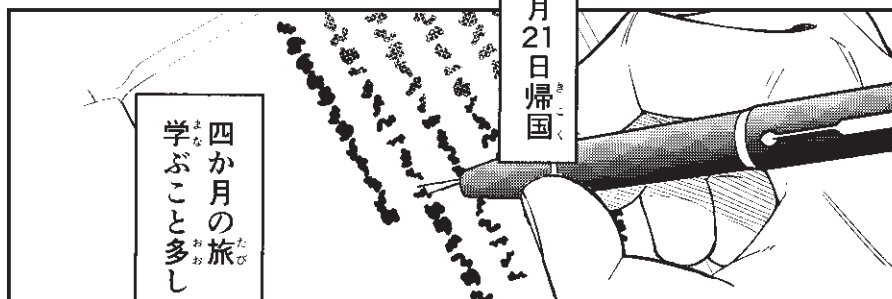
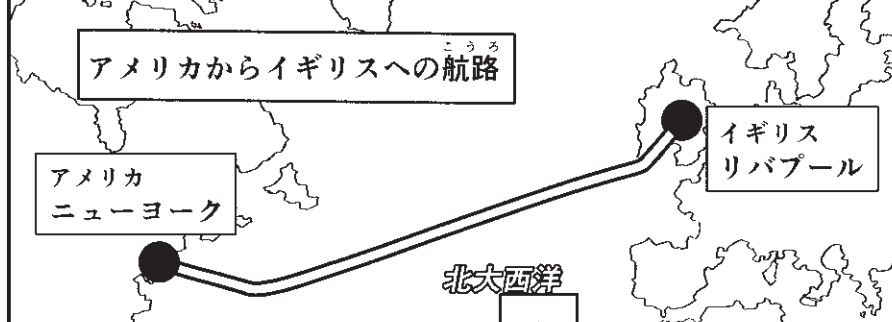
この国でも株式取引所の

運営の仕方、

鉄道に関する調査を行う。

(日記は上巻で終わっており、

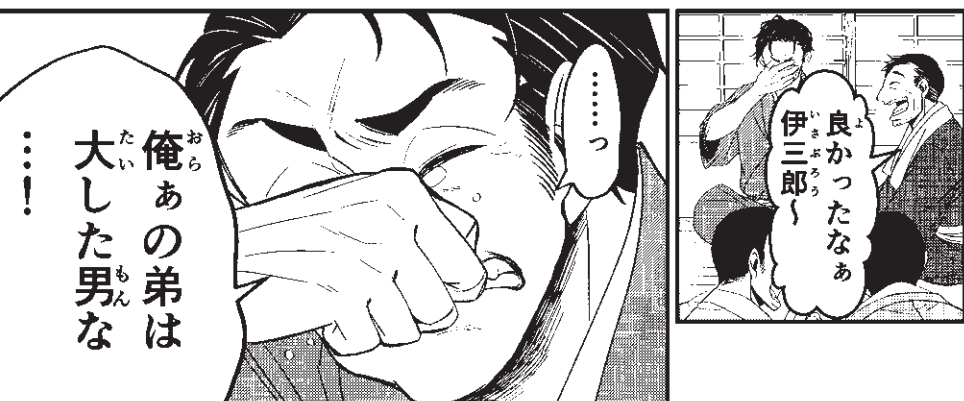
イギリスでの旅は発表されていない)



わがすいせんぶん
私が推薦文を
書こう!!

米國之部
外遊漫録 上卷
今邨清之助編述





しおまわえいいち
波沢栄一いのうえかおる
井上馨いとうひろぶみ
伊藤博文おおくましげのぶ
大隈重信しんせいふ
新政府も
あら
新たな時代の荒波と
戦っていたせいふは極めて大胆な
けいざい
経済改革を行い
なにか
何とか国政を
なり立たせようと
したのだせいのみすけ
清之助たち
しょうじん
商人がそろばんを持ち
あら
新しい時代を生き抜こうと
戦っていたころめいじせいふ こうぞうかいかく
明治政府の構造改革

- ちそかいせい しょうさんこうぎょう おこな
1、地租改正、殖産興業を行う
はんせきほうかん
版籍奉還
かくはん かいたい
各藩は解体
- ぶし かいこ
2、武士を解雇するために
ちつろくしよばん おこな
秩禄処分を行う
- ちつろくこうさい きんり やす
3、秩禄公債を、金利が安く
せいふ
政府にとって有利な
きんろくこうさい
金禄公債へ切り替える

めいじせいふ さんじゅうく
明治政府の三重苦

- せいふ こくかうんえい
1、政府の持つ国家運営の
しきん すく
資金が少な過ぎた
- せいふ かにゅう おお
2、政府へ加入した多くの
ぶし せうりょう しはら
武士たちへの給料の支払い
- ぼしんせんそう お
3、戊辰戦争が起き、
せんび しせきん
戦費も借金によって
まかなう

くにとみ
一それは国と民が
いた とみな かいかく
痛みを伴う改革であった

政府は軍事力の強化と
近代産業の育成のため
鉄道建設を急いだ

明治5年
新橋―横浜間
大阪―神戸間・開通

これを皮切りに
明治25年までに
全国に鉄道が
敷かれていった

鉄道によって
人の移動や物流が
速くなる利便性が
日本各地へ浸透
していくのだった

しふさわえいいち
波沢栄一

株式会社
銀行

そして鉄道

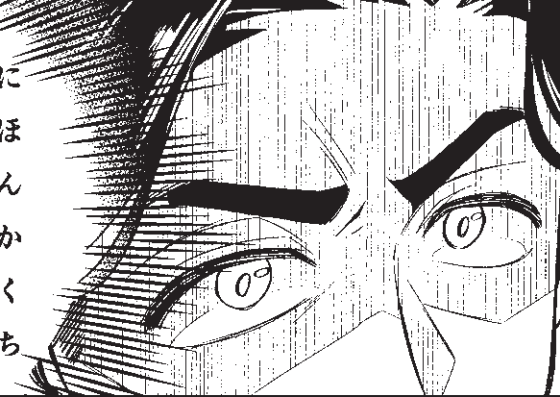
日本に
必要なものは
これなんだ……!

どこかに
共に働いてくれる
同志はいないものか
……

清之助も鉄道敷設の意義を
強く感じていた

そして二人は共に動き出す

にほんかくち
日本各地
への
てつどう
鉄道の
けんせつ
建設こそ



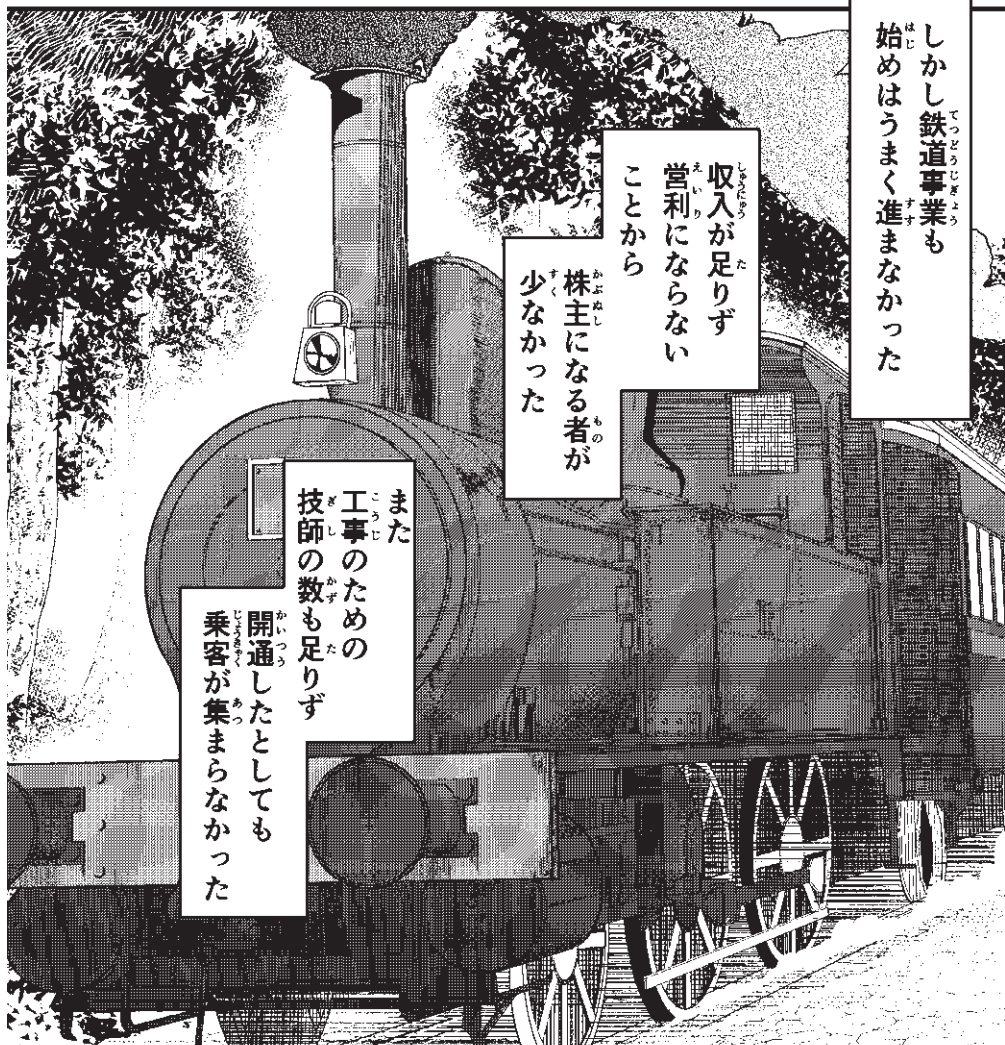
しかし鉄道事業も
始めはうまく進まなかった

収入が足りず
営利にならない
ことから

株主になる者が
少なかった

また
工事のための
技師の数も足りず

開通したとしても
乗客が集まらなかった





この国の
けいざい
経済を
はってん
発展
させる!!!

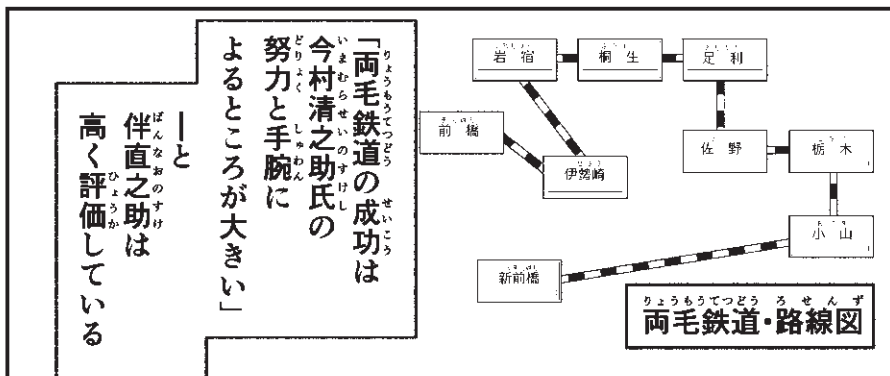




明治19年（1886）
両毛鉄道創設にあたり
清之助は自ら発起人となり
鉄道事業に乗り出した



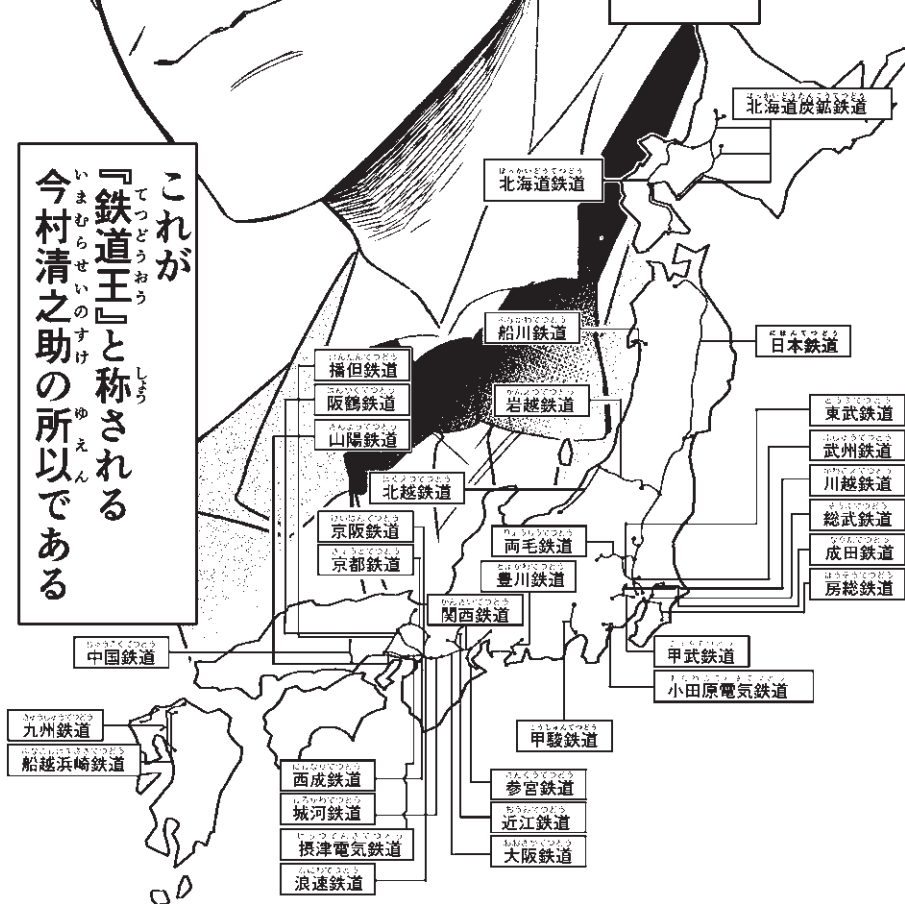
*約160億円 *約200億円



清之助が関わった
鉄道の仕事は
全国で70を超え

さらにその手腕は
台湾や韓国にも
およんだ

これが
『鉄道王』と称される
今村清之助の所以である



当時信州は信越間を走る
一官線があるのみで
ほとんどを荷馬車に
ゆだねていた

明治25年(1892)
今後敷設される鉄道予定路線が
発表されると全国で鉄道への
熱が高まった

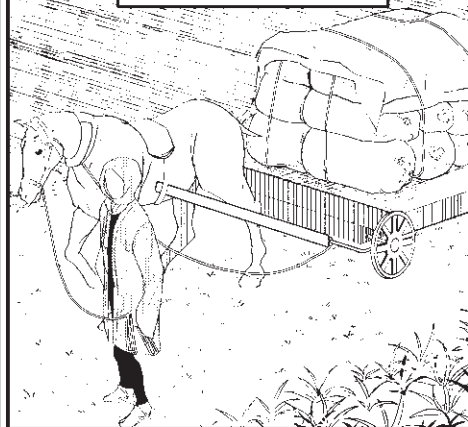
清之助さん!

何とか伊那に
鉄道を通してけれ
ないものか…!!

伊那に電車を走らせることは
皆の夢であり私の夢だ!!

なんとか協力
したい!

その予定路線に
伊那郡の文字があり
伊那線と木曾線とで
過激な競争が起こった
のである



だが
伊那線は険しい
地形が多く

工事に多額の費用が
かかったため
政府は木曽線を採用した

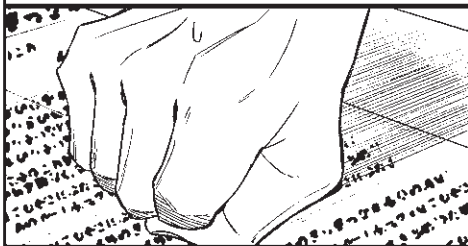
明治28年12月27日
清之助は発起人89人の連署をもって
辰野から飯田に達する約三十八里の
鉄道の私設を内務大臣に請願する

これが
伊那電気鉄道の請願である



しかし
鉄道の効力を
疑う世論もあり
清之助の尽力
空しく

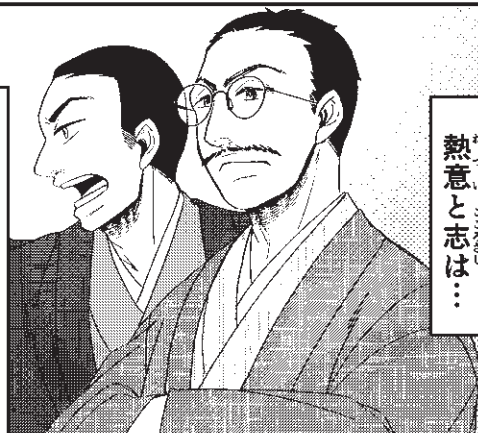
政府より特許された
事業にもかかわらず
中止の運びとなった



—だが

清之助や
発起人たちの
熱意と志は…

伊藤大八や
伊原五郎兵衛に
引き継がれていった



*伊那電気鉄道として昭和2年開通

明治21年(1888)12月3日
清之助は今村銀行を設立し
頭取となる

今村銀行

銀行は大きな筭預金だ

銀行の金が
日本の経済を發展させる

みんなが夢をもってお金を稼げば
日本はみんなのお金で發展して
いく!

銀行設立

おめでとう
清之助くん!

井上馨

ありがとう
ございます

でも
いいかい
設立した銀行を使って
株式の売買だけは
してはならないよ

それをすれば
信用を失い倒産
するだろう!

銀行設立の流れ

井上馨は

駆け引きが多い株の売買より
平等である銀行を信頼していた

明治5年(1872)11月
明治政府は
国立銀行条例を發布

明治6年(1873)
渋沢栄一
第一国立銀行設立
日本最初の民間銀行

明治9年(1876)
田中平八
田中銀行設立

153の国立銀行ができた

今村銀行は息子・繁三に
引き継がれ
昭和6年(1931)まで
存続した



清之助くん
信頼される
銀行となれ!!

清之助は井上馨の
その言葉を中心に刻み

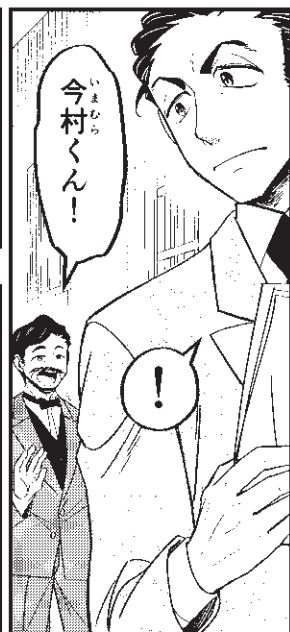
決して私利私欲へ
走ることはしなかった

九

いまむらせいのすけ 今村清之助という人

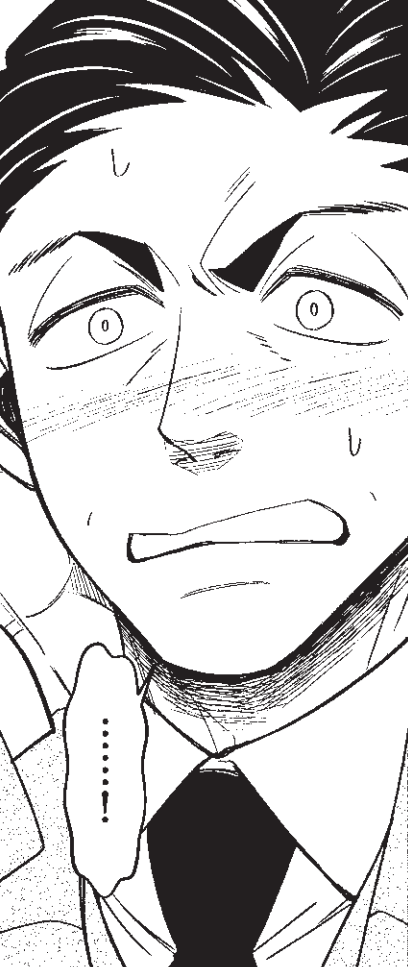
人力車は
明治3年(1870)に
開業すると大流行し

明治6年頃までに
全国に3万4200台も
普及したと記録が残る



＊人力車をひく人





じんりきしや
人力車は
ぜいたく品だ

金のできたから
と言って

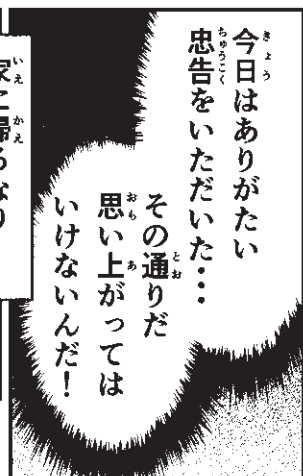
思い上がっては
いけないよ



その後
清之助は区の
議員に推薦され

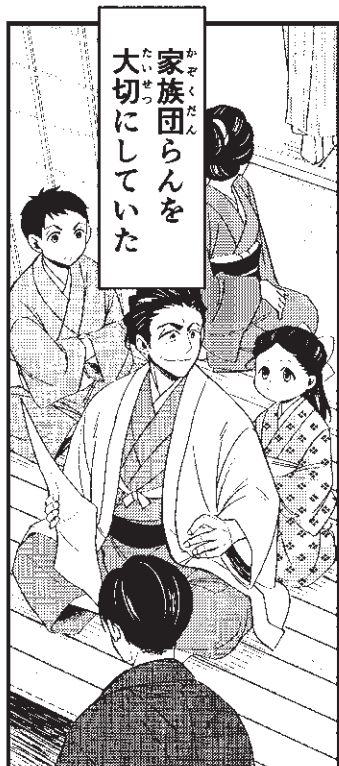
地域のために
尽力した

いえ
家に帰るなり
人力車を
壊してしまった



きょう
今日はありがたい
忠告をいただいた：

その通りだ
思い上がっては
いけないんだ！





明治34年（1901）
清之助は11月頃から
胃がんが悪化し
翌年入院した

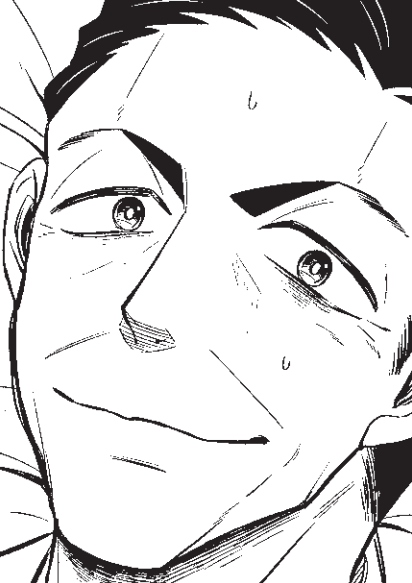
心配した井上馨が
ベルツ博士の診察を
受けさせていた

…井上さん

自分のしたいと思った
仕事は大抵成し遂げ
ました

あとは…
あとは家族の事
だけが心配です

君の家族のことは
私が引き受けたから
安心してほしい！



井上は
その約束通り



当時イギリスへ留学していた
息子の繁三を呼び戻し

清之助に
会わせただった



明治35年（1902）
9月24日

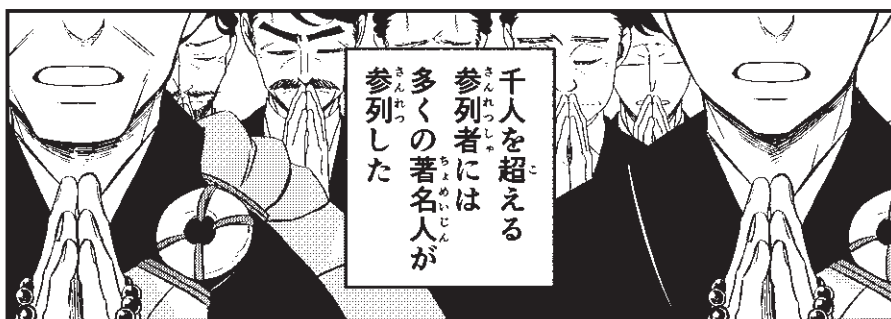
清之助は親族
そして従業員
一人ひとりと
握手をした

9月26日午後3時

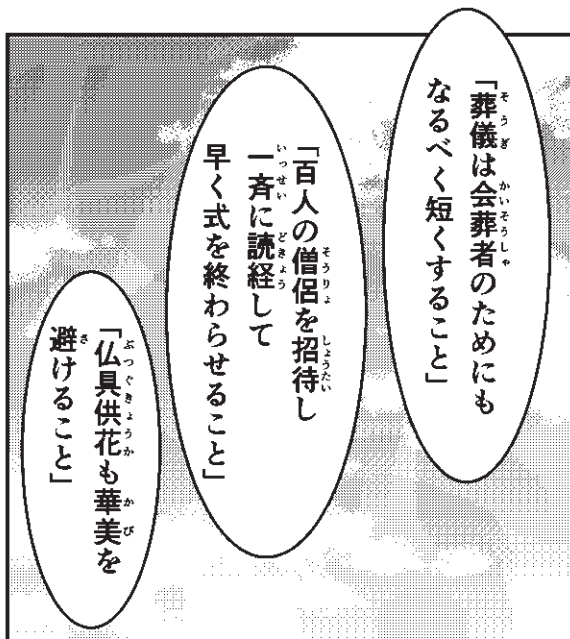
54歳の生涯を
閉じたのであった――



9月30日午後1時
芝・増上寺にて
清之助の葬儀が行われた



千人を超える
参列者には
多くの著名人が
参列した



「葬儀は会葬者のためにも
なるべく短くすること」

「百人の僧侶を招待し
一斉に読経して
早く式を終わらせること」

「仏具供花も華美を
避けること」



なんとも
荘厳で奥ゆかしい
葬儀じゃないか

…父の遺言です

「太く短く質素に」

父の生きざま
そのものです…

清之助は生前
出原村へ
永代寄付を
行った

村は
その寄付金を
生活に苦しむ人や
病気で苦しむ人の
救済に使った

10月18日
出原村での追悼法要

郡内の学校は
授業を休み

清之助の偉業を
校長が講話した

村民一同
出原宝泉寺へ拝礼

新時代を生き抜いた
鐵道王「今村清之助」の名を
今世も伝えてくれている

いずはやじんじや
出早神社の祭りに
たなびく幟旗は
陸奥宗光の筆である

せいのおすけ
清之助は
外遊をともしした
陸奥にお願いし
書いてもらった

じっか
実家の兄を尊重し
兄の名前で寄付した
のである

しんじだい
新時代を生き抜いた
てつどうおう
鐵道王「今村清之助」の名を
今の世も伝えてくれている

頼
神
恩
四
民
通
吉

明治三十二年

清之助に深く関わった人たち

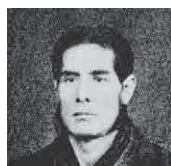


渋沢栄一
1840年(天保11) - 1931年(昭和6)

清之助の意見を聞き、実態にあった東京株式取引所を開設して、二人とも大株主として株式市場に協力した。鉄道事業においては、清之助とともに協力しあい、全国各地、海外にも鉄道を敷いた。

埼玉県深谷市の藍栽培農家で生まれ、江戸時代の終りに、將軍徳川慶喜の弟のお供としてパリ万博にいったこと

でした。そこで各国の先進技術などに驚き、すすめられて鉄道株を買い、売ったところ大きな利益を得たことが株式への高い関心となっていきました。フランスから帰国し、明治政府のもと大蔵省で働きまゐりました。鉄道株の体験から株の価値を見出し、東京株式取引所設立に力を注ぎ、日本ではじめての株式会社となる第一国立銀行の頭取にもなりました。「取引所と銀行が、一国の経済界を調節するためにどうしても無ければならない」という信念があり、その実現を成し遂げました。一生で500以上の企業の設立に関わり、さらに社会福祉や教育の分野にも活動の輪を広げました。



田中平八
1834年(天保5) - 1884年(明治17)

横浜に「糸屋平八商店」を開業し、大儲けをしたことから「天下の糸平」と言われた。やり手の相場師中国人フィドンとの相場合戦で清之助とともに戦った。二人して横浜から東京へ進出した。

赤須村(駒ヶ根市)で生まれました。18歳の時、飯田城下の染物屋の娘田中とはると結婚し、田中家の婿養子となり、田中平八となりました。横浜

開港を知り、家族を残して一人で横浜へ行きました。生糸問屋で働いていましたが、天狗党の乱に参加し捕えられてしまいました。この時「剣の道は必ずかしいからソロバンで生きる」と商売で生きる事を決意し、洋銀(外国製の銀貨)の両替商などをおこなうなど、「天下の糸平」と言われるほどの活躍をみせました。横浜金穀取引所の頭取にもなりました。東京では、米穀売買を取り仕切りました。晩年は自分の財産を投げ打って、熱海まで水道を敷いたり、電信線の架設を指示したり、小田原熱海間の開通を実現させるなど公共事業に尽くしました。49歳で亡くなりました。

※専主義派の水戸浪士。清之助が江戸に出生したその年、水戸浪士一行が伊那街道を通過した。



陸奥宗光
1844年(天保15) - 1897年(明治30)

清之助は、陸奥宗光が出獄したとき、迎えに行くなどして陸奥との絆を深めていた。陸奥が欧米視察旅行に行くとき、外国の経済・文化を学ぶよい機会を得た。清之助はこう考えていた。

和歌山藩士。1863年(文久3)頃、坂本龍馬の海援隊に参加し行動を共にしました。明治政府がおこなった廃藩置県で初の神奈川県知事になり、さらに地租改正局長として地租改正を推し進めました。

した。しかし西南戦争のおり、政府転覆計画に加わったとして5年間も牢に入りました。出獄後、欧米を旅行し各国を視察しました。帰国後は外務省に入り、1888年(明治21)駐米全権公使に就任し、外交官として活躍しました。1890年(明治23)におこなわれた第1回衆院選で当選し、農商務相、外務大臣を歴任しました。1894年(明治27)には日英通商航海条約に調印し、イギリスとの不平等条約の改正を担当し、治外法権の撤廃に成功しました。治外法権とは、日本に裁判権がなく、日本で犯罪を犯した外国人を、日本ではさばけないことをいいます。日清戦争勝利後の日本外交の立役者としても活躍しました。



井上馨
1835年(天保6) - 1915年(大正4)

やり手の相場師フィードンの場合合戦の際、清之助や田中平八が窮地におちいたとき、政府の役人として仲裁に入り、事をおさめた。鉄道事業や今村銀行設立の時にはよき助言を清之助に与え、清之助は井上馨に絶大な信頼を寄せている。

長州藩士。長州藩は薩摩藩とともに攘夷運動の先頭に立ち、「日本に開国を求めてきた外国を武力で排除して、鎖国を維持しよう」と考えていました。1863年(文久3)伊藤博文

らとイギリスの大学に留学し外国の様子を調べることにしました。その間にイギリス、フランス、アメリカ、オランダの連合艦隊が下関を砲撃し、急いで帰国した井上らはイギリス艦隊に乗り込み、和平交渉に尽力しました。明治政府になると大蔵省に勤め、渋沢栄一らと共に政府の緊縮財政を主張しましたが、積極財政を進めようとした大隈重信と対立し、これに抗議して大蔵省を辞めました。第一次伊藤内閣では外務大臣に就任しました。日清戦争の時には、陸奥宗光とともに伊藤内閣を支え、終戦まで朝鮮公使を務めました。政治家を退いたあとも、日本鉄道会社や日本郵船会社の設立にも力を尽くしました。

清之助の人柄を語る

清之助のことば

『論語に一を聞いて10を知る』というのがあるが、今の時代いくらかりこうな人でも、それでは成功しない。一を聞かずとも相手の顔色や態度をみれば、ただちに何を考えているかわかる。人に聞くようであれば到底大きな成功を遂げることは難しい。世の中はすべて生きる学問だ。』

渋沢栄一のことば

「君は実に健全な頭脳を備えていた。頭の働きの鋭く、物事の本質を素早くさとする能力を持っていた。君の一生を見ると他の人と正反對で、事実から理論を得る人だった。理論から入る人はそのまま終わってしまう。物事を思い切って行う性格だったから、いろいろな成功をしていった。」

伊藤大八のことば

「清之助さんは、語るときは簡潔に、5分もあればことは足りると、西成鉄道敷設買い上げの際、対話5分間での際、8万円を融通した。」

「明治32年の暮れ、夕方突然我が家に訪ねてきて、空腹だから何か食べさせてほしいと言った。家人が郷里より届いたつぐみ（鳥）をあぶり、するめの煮もの、

麦飯をすすめた。『これは珍味だ。幼少の頃、つぐみは、僕にとつては胃病の薬というべきもので、こうしたつましい食事は大事。ぜいたくになつてはいけない。実業家にあつても金は資本であるが、政治家にあつては貧が資本である。質素な生活を送ることが大事だ』と語っていた。」

※約16億円

男爵岩崎弥之助のことば

「九州筑豊両鉄道会社
が合併しようとした
際、清之助氏はその件
につき意見を求めてき
た。私はその必要性を
説き、人の多くが誤解
している『孤立と独立』
とは違うということを
述べた。のちに清之助
さんは私を訪ねてきて、
『あなたの孤立と独立の
説を伺ってすぐ両会社
に赴き、九州と筑豊を
首尾よく合併すること
ができた。感謝する』と。

当時清之助氏は両鉄道
会社の重役をしていた
が、私の言葉をうまく
利用し首尾よく事を収
めた。その技量に驚く。
清之助さんの知恵は天
性のものだ。」

「怖いおじさん」

腕白で言う事を聞か
ない子どもには、清之助
の肖像画を見せ、「怖い
おじさんと呼んで来る
ぞ」というと、たちま
ちいたずらをやめた。

親友吉川金兵衛のことば

「清之助さんは、金を儲
けるために働いたので
はない。働けばそれだ
けの結果を得る。儲けは
働きに伴う。まず熱心
に働きその結果、それ
だけの利益を得る。そ
れが土台となって今日
の地位に達した。世の人
の多くは、まず報酬が
いくらかを考え、見合
わなかったら事を起こ
さない。清之助さんと
比較すれば天と地の差
がある。」（実業家 清之助の同業者）

親友松本重太郎のことば

「上流社会に向かつて話
をまとめる能力のある
人は、一般社会の口うる
さい人に向かつて交渉
することは、はなはだ
苦手だ。これと反対に
一般人に話を運ぶ人は
上流の人たちに話をす
ることが苦手だ。そこ
へいくと今村君は、そ
の両方をそなえており、
大臣にでも誰にでもズ
ンズン話をする。こう
いう人は今後の社会に
ますます必要である。」
（実業家）



清之助さんは、なぜ横浜に行ったの？



江戸時代の終りに、アメリカから
ペリーが開国を求めて軍艦（黒船）

※にちべいわしんじょうやく
でやってきたことは学んだよね。幕府は日米和親条約を結び

外国との取引に応じる開国への動きがでてきて 200 年以上続いた鎖国が終わろうとしていた。横浜に港ができたのが 1859 年(安政 6)。私が 10 歳の時だ。港ができると外国から物が日本に入り日本の特産物が外国に売られていく。このように輸出が盛んになり横浜は貿易港として栄えていた。横浜は港を中心に外国人相手に商売をする店が多く、日本各地から特産物を持ちこむ人たちでにぎわっていた。江戸では安政の大獄とか井伊直弼暗殺とか血なまぐさい事件が多く、全国各地でも尊王攘夷論や王政復古を唱える人たちがいたけれど、私はお金を稼がなくて生まれ故郷を離れたから、商売の盛んな横浜に行った。その決断は正解だった。なぜならそこから私の次なる人生が始まったからね。

※日米和親条約 1854 年(嘉永 7)

日本とアメリカが結んだ条約。日本は下田と函館の 2 港を開港した。

※安政の大獄 1858 年～1859 年(安政 5～6)

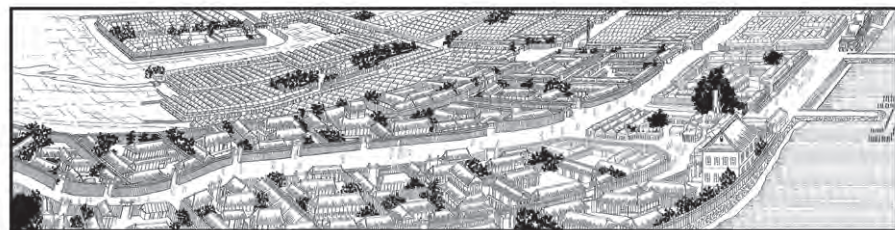
大老井伊直弼は、孝明天皇の許しを得ず、1858 年(安政 5)に日米修好通商条約を結び、井伊直弼は、これに反対する人たちを厳しく弾圧した。

※井伊直弼暗殺 1860 年(安政 7)

井伊直弼に反感をもった水戸藩の藩士たちが井伊直弼を討ち取る。「桜田門外の変」

※尊王攘夷と王政復古

尊王攘夷は、天皇を敬い、外国人を武力で打ち払う思想。王政復古は、天皇を中心とする政治に戻すこと



横浜港のにぎわい



清之助さんはなぜ横浜で地元の人
とあうことができたの？



そうだね。君たちも人口の多い今の
東京で地元の人にあうなんてことは

たぶんないだろうね。江戸時代、日本は特に中国から絹を大

量輸入しており、財政を圧迫していた。だから幕府は各藩に養蚕を
進めた。伊那谷の農家も養蚕を盛んにおこなうようになった。

横浜港ができると、貿易商が最も買いつけたがったのが日本の生糸
だった。幕末に、ヨーロッパで微粒子病という蚕の病気がまん延し、
蚕は卵をつくる前に死んでしまい、日本から蚕の卵を取り寄せるこ
とになった。私も蚕の卵を植え付けた蚕卵紙をつくり一時儲けたこ
とがあったけれど、その後価格が下がり損をしてしまったけどね。
輸出品の80%が日本の良質な生糸だった。だから伊那谷や上田、群
馬あたりから大勢の人たちが毎日のように横浜にきていた。港の近
くにいれば、地元の人にあうことも難しくないんだよ。その人が取
引している藤屋という生糸問屋の店に連れていってくれたことが、
私の人生の次なる転機になったんだ。運命の不思議を感じるね。



●総輸出額に対する生糸輸出額

年	総輸出額(ドル)	生糸輸出額(ドル)	割合(%)
1860(万延元)	3,954,299	2,594,563	65.61
1861(文久元)	2,682,952	1,831,953	68.28
1862(文久2)	6,305,128	5,422,372	86.00
1863(文久3)	10,554,022	8,824,050	83.60
1865(慶応元)	17,467,728	14,611,500	83.65

この表を見ても
輸出の80%以上が
生糸だったとい
うことがわかるね

出典 横浜市史

●産地別生糸売込量 ※斤(約600g)

上位3位まで	1873年(明治6)5月 ～1874年(明治7)5月	1876年(明治9) 1月～12月	1879年(明治12) 1月～12月
奥州(東北)	179,785斤 19.5%	239,108斤 22.2%	394,518斤 18.0%
上州(群馬)	448,437斤 48.7%	407,820斤 37.8%	582,273斤 26.6%
信州(長野)	102,019斤 11.1%	179,290斤 16.6%	624,926斤 28.5%

出典 横浜市史

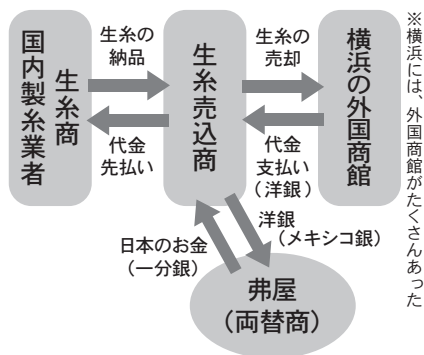


ドルや
弗屋とか聞きなれない商売けど、
清之助さんの人生にどのように関わ
っていったの？

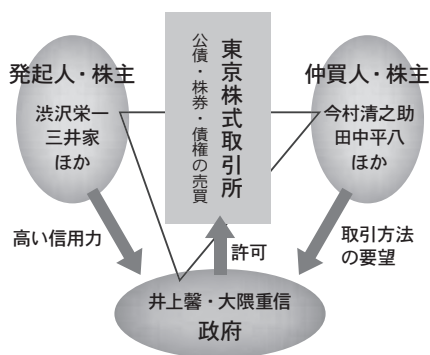


「弗屋」というのは外国のお金と日本
のお金を交換する両替商のことなんだよ。生糸産地から横浜
の生糸商人の店に生糸を売りに農家の人がある。その生糸を
商人が買い、農家の人に金を渡す。生糸商人は農家から買い取った
生糸を外国の商人に売る。生糸商人に外国のお金(ドル)が入る。そ
れを両替商である弗屋に持っていき、日本の金に換えてもらう。そ
の時の相場でお金の金利が変わる。その金利が高ければ高く売れて
儲けになる。そういった商売が横浜では盛んにおこなわれていた。
私が地元の人に連れて行ってもらった生糸問屋の店や弗屋で商売を
していた平野屋での経験が、私の次なる商売につながっていったん
だ。要するにお金の取引という基本的なことを教わったんだよ。私
より 15 歳年上の田中平八さんも生糸で儲けることがわかり、たくさ
んのお金を稼ぐことができたんだ。それから私は明治政府が発行し
た公債を売買する店をだして、東京株式取引所設立に協力できたし
株主にもなった。だから私のその後の人生は、鉄道に関係する事業
に積極的に関わることができたんだよ。

●お金の流れ



●証券市場誕生





新政府は、何をしようとしていたの？

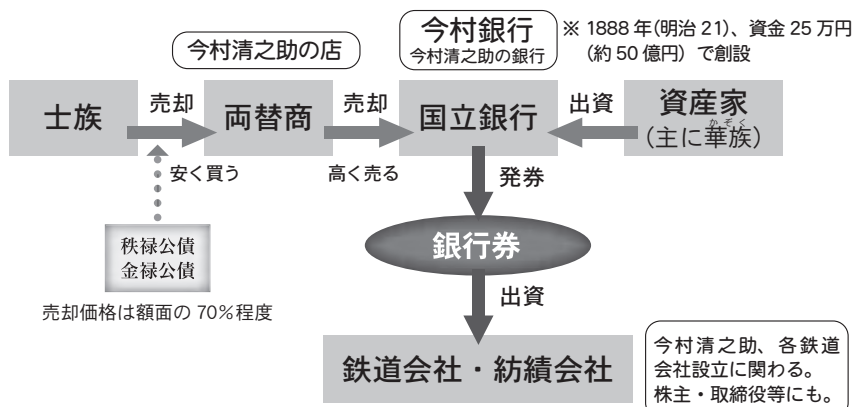


新政府は近代化をめざすために大改革をした。一番の問題は政府の財政難だ。

藩籍奉還で藩からの収入がなくなり、一方、士族も藩からの給料が途絶え生活に困る人たちがいた。政府は生活費（お米代）として秩禄公債を発行し、一年間に支払う金を利子で払うようにした。でもそれだけでは生活できなかった士族は、秩禄公債を売ってお金にした。その後政府は、秩禄処分をおこない、お米の値段を基準にした金禄公債を発行した。私の店は公債をお金に換えることだった。この商売は繁盛した。公債は銀行にもっていけば買い取ってくれた。国立銀行が 153 もでき、私も今村銀行をつくった。



●明治政府の構造改革と公債の関係



当時の政府の役人たちは、伊藤博文、井上馨、陸奥宗光、大久保利通、大隈重信、前島密ら。彼らは日本を外国並の近代国家にするために猛スピードで改革を進めた。外国から技術者を呼んで教えてもらい、工場も鉄道も開業することができた。私も外国視察で鉄道が日本の経済活動にいかにか大切かを学んだから、鉄道

事業に積極的に協力した。日本の各地で鉄道が敷かれる事業が起き、政府役人の井上馨、陸奥宗光両氏、渋沢栄一さんほかたくさんの人たちが関わって日本の各地に鉄道が敷かれた。これも明治時代をつくった人たちの底力だ。

◆新政府の大改革◆

- 1869年(明治2) 旧幕府軍と新政府軍の戦い「戊辰戦争」は新政府軍が勝利
1869年(明治2) 版籍奉還。藩主が土地と人民を天皇に返す。
1871年(明治4) 廃藩置県。藩を廃止し府県を置いた。初代神奈川県知事は陸奥宗光
1871年(明治4) 散髪脱刀令。刀やチョンマゲの武士のシンボルが消え、洋服を着るようになった。
1873年(明治6) 地租改正。土地の値段(地価)と土地の所有者を定めて、地価の3%を税として現金で納めさせた。豊作でも不作でも土地の値段は同じなので、政府の収入は安定するようになった。



渋沢栄一さんとの関わりを教えてください。



渋沢栄一さんは江戸時代の終りにパリ

万博にいてフランスの発展を目の当たりにした。私より早くに経済の仕組みについて自分の目で見て耳で聞いて、これからの日本はこうあるべきだと強く思った人だ。そして持ち前の行動力でどんどん事業を興していった。渋沢さんは日本に株式会社が必要だとの信念から、東京株式取引所の設立を願っていた。私もその思いは強く持っていたから、渋沢さんの家に毎日通って私の考えを伝え、株式取引所は開設された。今では東京証券会社として日本最大の証券取引所になっているね。皆さんが知っている事業で渋沢栄一さんが手がけたものがあるよ。

◆ほんの一例◆

みずほ銀行 八十二銀行 サッポロビール アサヒビール NHK 電通 IHI 帝国ホテル
大日本印刷株式会社 東京商工会議所 東京証券取引所 東京海上日動火災保険



その他の事業

中外商業新報 東京米商会所
仁壽生命保険会社 日本生命保
険会社 日本海陸保険会社 横
浜火災保険会社 徴兵保険会
社 東京学資保管会社 白水
探炭会社 入山探炭会社 明治
炭坑会社 杵島炭坑会社 天草
炭業会社 磐城炭坑会社 九州
炭坑会社 横浜株式米穀取引所
横浜米塩雑穀取引所 八重山糖
業会社 台湾製糖会社 日本精
製糖会社 東京製氷会社 帝国
ホテル会社 日本鉛管製造会社
王子製糸会社 東京印刷会社
日本メリヤス会社 東京板紙会
社 日本製帽会社 日本昆布会
社 生糸直輸合資会社 富士
製糸会社 富士紡績会社 函根
製糸所 東京紡績会社 京都

織物会社 日本織物会社 桑
名紡績会社 小名木川綿布会社
北越石油会社 東京瓦斯会社
東京電気会社 広島水力電気会
社 東京電燈会社 品川電燈
会社 武相電力会社 東京水力
電気会社 東京白熱電燈球製造
会社 日本パノラマ会社 日濠
貿易会社 若松築港会社 函館
船渠会社 上海紡績会社 利
根運河会社 湖南汽船会社 日
本郵船会社 帝国商業銀行 日
本銀行 第一銀行 横浜正金銀
行 第二銀行 十五銀行 北浜
銀行 北海道拓殖銀行 帝国商
業銀行と日本興業銀行合併

公職

東京商業会議所及び東京商工相
談会の発起人、会員

日本橋区議員
日本橋区学務委員 初等教育に
力を尽くす
日本橋区所得税調査委員、教育
会評議委員、衛生協会の会員・
幹事・名誉参与員
同名名誉職
東京市会議員に推薦、多忙につ
き1年で辞職
東京市養育院常設委員

その他

大日本教育会々員
日本橋区教育評議員
実業教育奨励会特別賛成員
慶応大学設立委員
東京府教育会終身会員
日本赤十字社々員
日本体育会有功名誉会員

慈善事業をおこなったきっかけ

清之助は、欧米視察旅行中に高橋新吉に「僕
は世の中にひとつの事もせず終えることは恥
じる。一連の事業と資産をなし、これを残し
て子孫の幸福安全をはかりたい」と語った。
それを聞いた高橋は「仮に巨万の富を遺し
偉大な事業を起こしても、自ら善行を積み、
美事を重ねなければ、子孫は到底幸せになら
ない。因果応報の理論である。君が子孫の幸
福を願うなら、善を積むのがよいことだ」と
助言し宣教師を紹介した。宣教師から教えを
聞いた清之助は、心がさっぱり澄み切った感
じがした。人々の救いになることも自分のや
るべき仕事であると心に決め、帰国後、公共

慈善事業に向かったと思われる。高橋新吉は
その後、九州鉄道会社社長となった。清之助
は相談役として高橋の片腕となった。
※良いことをすれば必ず良いことがある。また、その逆もある。

今村清之助の志

横浜にいた時は、業務のない時に寺の僧さん
について漢字を修め、文字を習うことを怠ら
なかった。
東京にいた時は、法律経済等を研究した。「人
はいつまでたっても、勉強の必要がある。
一技一芸といえども、時間の許す限りこれを
習得する」
乗馬を学び、美術・音楽も好み、特に公共慈
善の志が厚く、率先して献金した。

鉄道関連

■ 明治 19 年 (1886 年)

両毛鉄道創立発起人

■ 明治 21 年 (1888 年)

九州鉄道常議員

■ 明治 24 年 (1891 年)

山陽鉄道会社の大株主
東京馬車鉄道会社の整理委員
両毛鉄道取締役

■ 明治 25 年 (1892 年)

三角線敷設に尽力
参宮鉄道会社取締役

■ 明治 26 年 (1893 年)

名古屋線敷設の免許をとる
関西鉄道敷設の免許をとる
拓殖線敷設の免許をとる
九州鉄道会社取締役
九州鉄道会社と筑豊鉄道会社合併
関西鉄道・大阪鉄道合併
城河鉄道・浪速鉄道買収
山陽鉄道会社取締役

■ 明治 27 年 (1894 年)

沖縄鉄道発起するが中止
信濃鉄道敷設の発起人
中国鉄道会社敷設発起人・株主

■ 明治 28 年 (1895 年)

北越鉄道会社取締役・大株主
関東鉄道会社の株主、計画成功せず
関東鉄道、武相中央鉄道に合併株主に、その後中止
伊那電気鉄道計画、建設請願の発起人
甲斐鉄道発起人
京都鉄道会社監査役
東武鉄道会社発起人のち取締役

■ 明治 29 年 (1896 年)

近江鉄道(彦根-貴生川)取締役
西成鉄道取締役
東京瓦斯鉄道発起人・株主 中止
北信鉄道創立請願書
船川鉄道発起人 中止
台湾鉄道創立
武州鉄道会社発起人 中止
関西鉄道会社、城河浪速鉄道買収
毛武鉄道会社の発起人・取締役
のち中止
汽車製造会社の合資者
東武鉄道会社取締役
両山大社鉄道取締役のち解散
小田原馬車鉄道を電車鉄道に変更

■ 明治 30 年 (1897 年)

伊那電気鉄道株式募集着手
京仁鉄道(韓国)引受組合員
富士鉄道会社創立委員 のち中止
参宮線(宮川-山田)間開通
参宮鉄道会社取締役辞任

■ 明治 31 年 (1898 年)

関西本線全線開通
摂津電気鉄道株主
西成鉄道合併に関する私見を提出、却下

■ 明治 32 年 (1899 年)

桜の宮支線の敷設許可おりる
東武鉄道会社取締役辞任
西成鉄道取締役辞任

■ 明治 33 年 (1900 年)

関西鉄道会社と大阪鉄道会社合併
京阪鉄道発起人総会にて廃棄

■ 明治 34 年 (1901 年)

九州鉄道会社と豊洲鉄道会社合併し新会社の取締役
九州鉄道会社が唐津鉄道を買収
京都鉄道会社の取締役
京釜鉄道株主 京釜・京仁鉄道合併

株主として関係した鉄道

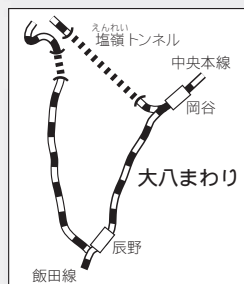
播但鉄道 阪鶴鉄道 日本鉄道 北海道炭坑鉄道 船越浜崎鉄道 豊川鉄道 南豊鉄道 岩越鉄道 成田鉄道 東京電気鉄道 東京電車鉄道 東京市街鉄道 川越鉄道 甲武鉄道 総武鉄道 房総鉄道 北海道鉄道

出願したが成立しなかった鉄道

東京野田電気鉄道 土佐鉄道 鎮西鉄道 上武鉄道 常野鉄道

い はら ご ろ べ え つ 伊原五郎兵衛らに受け継がれた伊那電気鉄道建設

1892年(明治25)に発表された中央西線のルートをめぐる、木曾谷^{けいゆ}經由か伊那谷經由かで両地方の激しい合戦がおこなわれたが、結局1894年(明治27)木曾谷ルートが決定された。この間、今村清之助^{とっきよせいがんしよ}は伊那電気鉄道会社の創立委員となり特許請願書を国に提出し許可されたものの、険しい地形の伊那線は予算的な問題



も大きな課題となり、断念せざるをえなかったといういきさつがある。

無念な結果に終わったが、中央線の一角でも伊那を通そうと、鉄道局長であった伊藤大八^{いっかく だいはち}を先頭に運動を進めた。その結果、辰野^{うかい}を迂回するルートが実現した。このルートを「大八まわり」と名づけた。

なんとしても伊那谷に電車を通したいという気運はますます盛んになった。飯田の伊原五郎兵衛(初代)が中心になって、1895年(明治28)に辰野—飯田間に電気軌道建設の請願書を提出。1907年(明治40)に伊那電車軌道株式会社の設立総会を開くところまでこぎつけたが、初代伊原五郎兵衛が亡くなってしまった。初代の後を継いだのが、息子の二代目伊原五郎兵衛である。二代目伊原五郎兵衛は、東京大学を優秀な成績で卒業し、外務大臣陸奥宗光にも目をかけられ外交官を目指していたが、父の遺志^{いし}を尊重し、一転して、伊那電気鉄道開通に全力を注ぐことになる。

二代目伊原五郎兵衛らは、辰野—伊那町間の建設を計画し、1909年(明治42)12月28日、辰野—伊那松島間開通、運転を開始した。そして南へ南へと小刻みに建設が進み、目標の飯田まで延べ66.4kmの全線が開通したのは1923年(大正12)8月3日であった。今村清之助出身の高森町市田駅が開通したのは同年3月である。天竜峡までつながったのは1927年(昭和2)12月であった。今村清之助^{じんりよく}らが尽力した伊那電気鉄道の計画は、伊原五郎兵衛という人物に引き継がれ実現したのである。 出典『飯田線ろまん100年史』

※ 伊藤大八 1858年(安政5) - 1927年(昭和2) 飯田市上殿岡出身 帝国議會議員



西暦	年齢	今村清之助の一生
1849 嘉永2	1	3月、出原村（高森町）嶋田屋吉左衛門の二男として生まれる。 幼名周吉
1862 文久2	14	庄屋であった嶋田屋は没落のなかにあったため、父も兄も他人の家に賃作 14歳頃、他人のものになった山で枯枝を拾い、新しい持ち主に叱られる。祖母から、いざれ買い戻すよう頼まれる。
1864 元治元	16	いくら働いても農家では資産家にならない。商売で手早く儲けよう。3月家を飛び出し横浜へいく。生糸問屋藤屋に就職。藤屋の紹介で平野屋に就職。間もなく父の使いによって家に連れ戻される。兄に金を借りて卵・生糸などの行商を始める。清之助と名前を改める。
1867 慶応3	19	12月、再び家を出て、中山道から尾張の国に向かう。
1868 慶応4 明治元	20	1月、自分の高い道中3人連れに出会い、尾張から東海道を通って横浜にいく。以前お世話になった平野屋・藤屋を頼ったが、二軒とも事業に失敗し行方をくらましていた。しかたなく生活のためにはサザエのつば焼き、煙草売り、お酒のコップ売りなど露天商となる。蚕種の買い出しで儲けた金を生糸相場に投じて無一文に。横浜には外国人を相手にする商売もあり、成功や失敗を繰り返しながら確実に商売のこをつかんでいく。平野屋市五郎と再会し、平野屋を再開して手代となる。
1870 明治3	22	2月、平野屋主人夫婦のすすめで平塚町の斎藤彦兵衛二女やす子と結婚。平野屋地続きの長屋に住む。鍋・釜など一つずつ揃えていく。横浜高砂町に移転し、平野屋から独立する。商店「島田屋清助」開業
1834 天保5	18	日本の出来事 渋沢栄一 田中平八 8月15日赤須村（駒ヶ根市）に田中平八生まれる。
1840 天保11	24	2月13日（3月16日）、深谷市（埼玉県）血洗島に渋沢栄一生まれる。
1853 嘉永6	30	ペリー来航 飯田城下の染物屋の娘田中はると結婚。「婿養子」となり「田中」姓に
1854 安政元	31	渋沢栄一、家業の畑作、養蚕、藍間屋業にげむ。
1858 安政5	35	日米修好通商条約締結 神奈川ほか開港
1864 元治元	41	田中平八、天狗党の乱に参加捕えられ投獄 渋沢栄一、一橋慶喜に仕える。
1865 慶応元	42	水戸浪士、伊那谷通過
1866 慶応2	43	田中平八、横浜で糸屋平八商店開業「天下の糸平」 徳川慶喜征夷大将軍。渋沢栄一、幕臣となる。
1867 慶応3	44	渋沢栄一、徳川昭武に従ってフランスへ出立（パリ万博使節団）。フランス滞在中、勤められるままに鉄道債を購入したところ、利子のほかに500円儲かったという体験をする。
1868 慶応4 明治元	45	大政奉還 鳥羽伏見の戦い。鳥羽、伏見で旧幕府軍と新政府軍が交戦。旧幕府軍が敗退 明治に改元 明治天皇即位
1869 明治2	46	渋沢栄一、明治維新によりフランスより帰国、静岡で慶喜に面会 版籍奉還 江戸を東京と改称、東京を首都とする。

西暦	年齢	今村清之助の一生
1872 明治5	24	2月、横浜本町の横町に転居。家庭内貯金箱をつくる。 平野屋が倒産し、贖金事件に巻き込まれる。 6月、旧平野屋の地所・建物を購入 今村商店を開き、仲買商、両替商として広く商業を営む。金穀相場会所で仲買人となる。 「フイドン」との相場合戦
1873 明治6	25	田中平八と清之助は横浜での両替商を続けるのは難しくなり、東京に進出。日本橋堺町（人形町）に太物（綿麻類）を扱う店を開業。東京での情報収集に努める。株禄公債の売買が次の時代の中核となると見据え、横浜組の15名を従え日本橋境町の砂糖倉庫で公債売買を始める。清之助は渋沢を訪問し、株式取引所の設立についての協力を求める。
1874 明治7	26	井上馨を通じて糸平からのとりなしで、清之助が指揮する横浜組への不快感の解消が進み、清之助と渋沢の協力関係も機能し始める。東京日本橋兜町に移り、公債証書の売買を行う。 6月、東京株式取引所が創設され、株の仲買人となる。 株式取引条例を改正するよう政府に要望 栄一と清之助は「筆頭株主にならない、同じ株数を出資し、影響力を同一とする、役員にもならない」これらが決められた。 この頃、妻やす子病気になる、下谷区根岸に別宅を建てる。 4月、陸奥宗光と欧米外遊に出発 同じ船で外遊した人、山階宮ほか留学生や海軍の軍人など25名 サンフランシスコに到着
1875 明治8	27	
1878 明治11	30	
1881 明治14	33	
1884 明治17	36	
1871 明治4		郵便制度開始 廃藩置県 日清修好条規締結 岩倉具視ら欧米諸国視察 田中平八、横浜金穀相場会所設立。頭取。洋銀相場会所設立 学制公布 新橋―横浜間に官営の鉄道が開業（日本初） 国立銀行条例制定 富岡製糸場設置 渋沢栄一、大蔵省を辞める。第一国立銀行開業 徴兵令公布 地租改正、土地所有者に納税義務 株禄公債発行 民選議員設立建白書 株式取引条例発布したが中止 樺太・千島交換条約締結、樺太はロシア領、千島列島は日本領 田中平八、田中銀行を創立 帯刀禁止令 金禄公債発行 株禄処分により、士族の乱相次々。 東京株式取引所設立認可申請 兜町三井家の敷地内西南戦争 五代友厚、大阪株式取引所設立 沖縄県設置（琉球王国消滅） 153の国立銀行設立

[illegible]

西暦	年齢	今村清之助の一生	
1892 明治25	44	帝国ホテル会社の理事・取締役 両毛鉄道株式会社社長代理、のち辞任、取締役に復帰。東京株式取引所の相談役。東京市会議員。関西鉄道株式会社の大株主。関西鉄道会社の常議員。参宮鉄道会社の取締役。東京株式改良に力をついての私見を出す。熊本県の三角線敷設に力を尽くす。 合資会社今村銀行設立。資本金50万円。清之助が頭取、息子繁三が取締役。亀島町より南茅場町に移る。	1892 明治25 鉄道敷設法公布 第二次伊藤内閣
1893 明治26	45	山陽鉄道会社の取締役。関西鉄道、名古屋線、柘植線敷設の免許を得る「関西将軍」と呼ばれる。九州鉄道会社取締役。九州鉄道会社と筑豊鉄道会社が合併	1893 明治26 海軍軍令部設置 君が代が文部省より制定
1894 明治27	46	春、沖縄鉄道を発起するも、財界不振のため中止。信濃鉄道（篠ノ井―辰野間）私設で敷設の発起人の一人となる。その後、官設となり、信濃鉄道会社解散。利根運河会社の取締役。中国鉄道会社（岡山―米子）の敷設発起人・株主。仁寿生命保険会社の商議員	1894 明治27 日清戦争起きる。
1895 明治28	47	京都鉄道会社（京都―舞鶴・宮津、京都―和田山・豊岡）の監査役。北越鉄道会社（直江津―新潟、新津―新発田）の取締役。関東鉄道会社（東京芝区―小田原）の株主となるも、計画は成功せず。生糸直輸合資会社を興し、1900年まで継続。伊那電気鉄道を計画、建設請願の発起人。甲斐鉄道の発起人となるが、1896年に解散	1895 明治28 下関条約締結 台湾総督府開庁（日本の出先官庁） 第二次私鉄ブーム（1900）
1896 明治29	48	近江鉄道（彦根―貴生川）の取締役。富士紡績会社設立の発起人・株主。西成鉄道の取締役。東京瓦斯鉄道の発起人・株主となるも、計画は中止。北信鉄道（直江津―糸魚川―松本）創立の請願書を出す。	1896 明治29 第一回オリンピック開催（ギリシャアテネ）

1897 明治30	1898 明治31	1899 明治32	1900 明治33	1901 明治34	1902 明治35
49	50	51	52	53	54
箱根に製糸場を開く。船川鉄道（秋田―男鹿船川港）の発起人となるが計画が中止。台湾鉄道の創立に力を尽くす。武州鉄道（八王子―高崎）会社の発起人となるが中止。関西鉄道会社が城河浪速鉄道買収。毛武鉄道（板橋―熊谷―足利）会社の発起人・取締役。1900年に中止。東京学資保管会社を興す。汽車製造会社の合資者。東武鉄道（東京千住―栗橋）会社の取締役。両山大社鉄道の取締役となるが1898年に解散	京仁鉄道（韓国京城―仁川）引受組合員。函館船渠会社が営業開始。その発起人・株主。富士鉄道会社（鈴川―大宮）の創立委員、計画中止。参宮線（宮川―山田）間開通。参宮鉄道会社取締役を辞任。関西本線（名古屋―大阪）全線開通。摂津電気鉄道の株主。今村銀行の社屋を新築	桜の宮支線の敷設計可があり。東武鉄道会社の取締役を辞任。西成鉄道取締役を辞任	東京水力電気会社設立の発起人・株主。関西鉄道会社と大阪鉄道会社が合併	九州鉄道会社と豊洲鉄道会社が合併し、新しくできた会社の取締役。九州鉄道会社が唐津鉄道を買収。京都鉄道会社の取締役。京釜鉄道創業、株主	九州鉄道会社、貝島鉄道を買収する。 「あとのことは一切井上馨にお願ひしてある」と家族に申し渡す。 9月、54歳の生涯を閉じる。
1897 明治30	1898 明治31	1899 明治32	1900 明治33	1901 明治34	1902 明治35
第一次大隅内閣成立	東京―大阪電話開通	伊藤博文、立憲政友会を結成	私設鉄道法、鉄道営業法公布	八幡製鉄所を建設（清からの賠償金で建設） ノーベル賞創設	日英同盟締結 日本興業銀行設立 渋沢栄一、夫人同伴で欧米視察。ルーズベルト大統領と会見

写真が語る 清之助の足跡



とうきょうかぶしきとりひきじょ
当時の東京株式取引所



いまむら せいいち
今村清之助



とうきょうしょうけんとりひきじょ
現在の東京証券取引所



ほしよ やななれいえん
今村清之助墓所 (谷中霊園)

がいゆうまんろく
外遊漫録 上巻
アメリカ視察の体験記



東京株式取引所創立證書
持ち株数は清之助が渋沢栄一と並んで2位（98株）
清之助のサインも見られる。

今村清之助事歴

今村清之助事歴
編集発起人（11
名）が清之助の
一生をまとめた
記録冊子



渋沢栄一が、清之助の功績をたたえる序文
を寄せている。



天龍峡今村公園

大正11年に今村清之助の息子繁三から土地を提供
され、「今村公園」と名付けられた。繁三は、今村
銀行の二代目
地元の龍江の人たちが管理している。



出早神社ののぼり旗 外務大臣陸奥宗光揮毫
（意訳）天子のめぐみを受けてすべてのもの
がよく育ち、神のめぐみによって、すべて
の人々が幸せになる。

「寄附金は清之助が出し、寄附者は長兄に」という清
之助直筆の手紙は、今村家より高森町歴史民俗資料館
に寄託された。

「気暖万丈の人」といわれた 清之助に学び、地域に誇りを

たかもりまち
高森町 町長
みぶ しょうげん
壬生 照玄



いずはらしゅっしん れきし じんぶつ えど まつき めいじ げきどう じだい
高森町出原出身の歴史人物で、江戸末期から明治への激動の時代
に、渋沢栄一らと共^{とも}に日本^{けいざい}経済^{きそ}の基礎^{きそ}をつくった、今村清之助の
しょうがい こうせき した まんが はっかん
生涯^{しょうがい}や功績^{こうせき}を、親^{した}しみやすい漫画^{まんが}にして発刊^{はっかん}しました。

時代^{へんか}が大きく変化^{へんか}する中^{つよ}、強い意志^{いし}の力^{ちから}で多くの苦難^{くなん}を乗り越え
て生き、広い見聞^{けんぶん}を持^もって課題^{かだい}を円満^{えんまん}に解決^{かいけつ}し、温かい暖炉^{あいた}の火^{だんろ}の
ように人^{せつ}に接^{せつ}したという清之助^{とうじ}の人^{けいざいじん}となりを、当時の経済人^{とうじ}の一人^{けいざいじん}
で親友^{しんゆう}であった馬越恭平^{まこし きょうへい}が「気暖万丈の人^{きだん ばんじょう}」と評^{ひょう}しています。意気
さか せい いみ きえん ばんじょう い か
盛^{さか}んなことを意味^{いみ}する「気炎^{きえん}万丈^{ばんじょう}」を言い換^いえたものです。

こうした清之助^{せいし}の生きざまに多くの方々^ふが触^ふれて、先人^{せんじん}に学^{まな}ぶと
ともに、歴史人物^{れきし}を育^{はぐ}んだこの地域^{きかい}に誇^{ほこ}りを持つ機会^{きかい}となることを
ねが
願^{ねが}っています。

ながのけん ちいきはつ げんき しえんきん じぎょう さいたく
発刊^{はっかん}にあたっては、長野県^{ながのけん}地域^{ちいき}発元^{はつげん}気づくり支援^{しえん}金事業^{きんじぎょう}の採扱^{さいたく}を
う さくが たんどう ちょうないざいじゅう まんがが すず
受け、作画^{さくが}を担当^{たんどう}してくださった町内^{ちょうない}在住^{ざい}の漫画家^{まんがが}・アサミネ鈴^{すず}さ
へんしゅう かんしゅう しりょうていきょう じんりょく
んをはじめ、編集^{へんしゅう}および監修^{かんしゅう}、資料^{しりょう}提供^{ていきょう}ほか、ご尽力^{じんりょく}いただいた
かんけい みなさま れい もう
関係^{かんけい}の皆様^{みなさま}にお礼^{れい}を申し上げます。

◆ この本にご協力いただいた方々 ◆

※令和3年度長野県地域発元気づくり支援金事業で作成されました。

歴史人物
まんがで知る
ふるさと伊那谷



今村清之助